

読める年表

羽生須影地区歴史年表

— 須影地区の今むかし —



羽生須影今むかし探求会

『読める年表 羽生須影地区歴史年表』刊行によせて

いつも明るく いつも仲よく われらはまなぶ われらははげむ

羽生市立須影小学校校歌の一部である。卒業して数十年間経った今でも、ふと気がつくとき口ずさみ気持ちが朗らかになるのは、私だけではないと思います。

須影小学校と旧須影中学校を卒業した私は、羽生市の豊かな自然や長閑な田園風景が大好きで、人の温かさやぬくもりをも含めて「ふるさと羽生」を大変誇りに感じています。

このたび、羽生須影今むかし探求会をはじめとする多くの皆様方のご尽力により『読める年表 羽生須影地区歴史年表』が刊行されましたことに、心よりお喜び申し上げます。

須影地区には、この年表の歩みの中にも示されておりますが、「須」、「砂」、「崎」、「川」などの文字に表れているとおり、河川に関連した地名が多く見られ、かつては水との闘いで非常にご苦労なされたことが想像できます。

それら先人の営みを読み解くためには、地元に残された資料を丹念に発掘し、正しい歴史事実を把握することが必要です。その成果を地元に戻元することにより、住んでいる土地に目を向けていただければ、愛着が深まり、地域が活性化していくものと思われまふ。そして、子どもたちがふるさとを慕う心を育てていただければとても嬉しく思ひます。

江戸時代の須影地区からは、前頭まで進まれた力士の武蔵川大治郎さんや、剣道の大家の岡田十松さんなど、体育の分野でご活躍なされた方々を輩出しており、とても誇らしく思ひます。

また、地区の鎮守である須影八幡社には、すぐれた彫刻が残されているように、芸術面でも秀でたものがあります。算学に記された問題と解答を見ると、当時世界的にみてもかなり高い水準にあったと言われている日本の数学が、身近に根付いていたことに驚かされます。

今後ともこの地域史発掘事業を通して、羽生須影地区の子どもたちが自分たちのふるさとの歴史にふれ、知育、徳育、体育そしてコミュニケーション能力のバランスのとれた「生きる力」を育てていくことを、心より期待しております。

羽生市教育委員会
教育長 秋本文子

まえがき

荒川筋を流れていた利根川も、次第に東移し、会の川筋へと流れをかえていった。堀口万吉氏によると、須影地区に入った旧利根川は、現在残る砂丘等からみて、砂山から3回、大きく流れをかえているといわれている。

当初は砂山で大きく左折し、現在の手子堀用水路筋を流れていたが、その後、南方へ直進し、現在の星川筋へと流れをかえ、いつの頃からか、現在の会の川筋の流れになったとある。

須影地区に人が住み始めたのは、現在の地名から察すると、堀口氏説の最も古い流路、いわゆる手子堀用水路筋に利根川が流れていた頃と思われる。

平安時代には、羽生付近の地は葛浜郷と称されていた。

鎌倉御家人の中に、その葛浜郷に住み、その郷名を名乗った葛浜四郎行平がいたと『吾妻鏡』に記されている。

南羽生駅の西に葛瀬氏館跡と言われている地があり、この葛瀬氏が葛浜氏と同族とすれば、この須影地区にも鎌倉御家人が居していたこととなり、須影八幡宮に伝わる頼朝旗掛け伝説もうなずける。

推測の域を出ないが、奥州に向かう途中の源頼朝は、須影村に住む葛瀬氏の招聘により、須影村の郷社に立ち寄り、そこで休憩をとるとともに、戦勝を祈願したのかも知れない。

葛瀬氏は、それを機に鶴岡八幡宮から八幡大神を分祀したのではなかろうか。

砂山の『愛宕神社縁起』に「利根川決壊により田畑が崩壊した」とある。

利根川はたびたび氾濫し、田畑を崩壊していった。

『下川崎の記録千年紀記念誌』に「南流した利根川が川俣に於いて締め切られ、下川崎地区が生まれた。そこへ秩父方面から移住した…」とあるように、須影地区に本格的に人が住み、集落を形成していったのは、文禄3年(1594)の川俣で旧利根川が締め切られた後のことであった。

その後、須影地区住民のたゆまぬ努力により、用排水路の開削、新田の開発、寺社の建立等、須影地区の発展の礎が築かれていった。その間、領主の交換、宗門改め、検地、神仏分離、地租改正等、種々の出来事が施行され、それに伴い多くの文書等が作成されていったが、それらの貴重な資料も、時代の流れの中で、次第に喪失されていったことは痛恨の極みである。

これらの貴重な地域史資料をなんとか後世に残すことができなかと考え、平成24年、趣旨を同じくする仲間が集まって、郷土須影地区の地域史発掘を主眼とした「羽生須影今むかし探究会」を設立し、地域の方々のご協力のもと、散逸しつつある文書等の収集、歴史的資料の発掘等の調査研究を行ってきた。

それらを調査するなか、須影地区の歴史の深さ、そしてその重さを知り、この貴重な須影地区の地域史を、一部の者の頭中に眠らしておくことに疑問を感じ、平成26年9月に、須影地区の郷土史年表『須影地区のあゆみ』を発行したところであった。

その後、「羽生須影今むかし探究会」も積極的に須影地区の地域史発掘に努力し、新情報及び新事実の発見を得ることができたことから、探求会発足5年目を迎えるに当たり、新たに改訂増補した刷新版としての『読める年表 羽生須影地区歴史年表』を発行することとした。

須影地区にも、このようなことがあったこと、このような優れた人物がいたことを知っていただき、須影地区の歴史に、より深く興味を持っていただければ、こんな嬉しいことはない。

なお、この書を作成するに当たり、お世話になった諸先生に改めてお礼を申しあげますとともに、今後、郷土須影を研究するに当たっての一助として座右においていただければ幸いである。

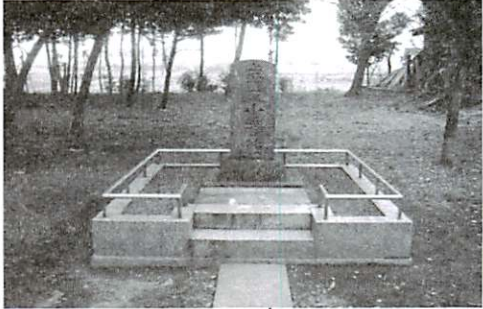
平成28年7月

目 次

刊行によせて	
まえがき	
1 須影地区のあゆみ	1
2 須影地区各村江戸時代領主遷移表	5 3
3 須影地区歴代区長一覧	5 4
(1) 須影	
(2) 下川崎	
(3) 上川崎	
(4) 砂山	
(5) 加羽ヶ崎	
(6) 秀安	
(7) 下羽生	
(8) 須影団地	
4 須影公民館歴代館長一覧	5 9
5 須影中学校歴代校長一覧	5 9
6 須影小学校歴代校長一覧	6 0
7 須影地区及び関連指定文化財	6 1
8 須影地区思い出の歌	6 3
(1) 須影小唄	
(2) 羽生市立須影中学校校歌	
(3) 羽生市立須影小学校校歌	
(4) 県立羽生高等学校校歌	
(5) 県立羽生ふじ高等学園校歌	
参考文献	6 8
索引	6 9
会員名簿	7 1
編集後記	7 2


表紙絵 渡辺由香里氏（羽生市立須影公民館）

1 須影地区のあゆみ

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
縄文時代 (3000～ 4000年前)		<p>7000年前の縄文時代前期には、縄文海進（北米大陸北部及び北ヨーロッパ大陸北部にあった氷床の解氷による海面上昇により海が陸地の奥深く入り込む現象）により、羽生近くまで海が入り込んでいたが、利根川、渡良瀬川等の土砂堆積、及び海面後退により、次第に海が南下し、3000年前頃には、羽生あたりも陸地化していった。</p> <p>万葉集に歌われた小埼（おさき）が尾崎とすれば、縄文海進の名残りである入江や沼が須影地区の近くまであり、それに隣接し、台地となっていた須影地区には人々が住を持っていたと思える。</p> <p>【新編武蔵風土記稿 尾崎村の項】 埼玉津小埼沼皆萬葉集の歌にも見え、當所の名所なるはいふもさらなり、されど上りたく世の中にして、奮蹟しかと論じがたし、然るに此邊多くは沼田なれば、もしくは當所小埼沼の奮蹟にて、後年尾崎の文字に改しも知るべからず</p> <p>【万葉集卷九 一七四四】 見武蔵小埼沼鴨作歌一首 前玉之 小埼乃沼尔 鴨曾翼霧 己尾尔 零置流霜乎 掃等尔有斯 [読み下し] 武蔵の小埼沼の鴨を見て作れる歌一首 前玉の小埼の沼に鴨ぞ翼（はね）きる己がをに ふりおける霜を 掃（はら）ふとにあらし</p> <p>利根川も当初は今の荒川筋を流れていたが、次第に東移し、今の会の川筋へと流れをかえていった。 堀口万吉氏によると、須影地区に入った旧利根川は、現在残る砂丘等からみて、砂山から大きく3回流れを変えているのが分かるという。それによると古くは砂山から東北東に向い、今の手子堀用水路筋を流れていたが、その後、南方へ流れを変え、現在の星川に注ぐルートとなった。そして、いつの頃からか、砂山から東方へ流れを変え、現在の会の川の流れとなったとある。</p>	 <p>小埼沼の碑</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
古墳時代 (5世紀末～ 7世紀)		<p>須影地区の地名は河川に関連した名が多い。</p> <p>「川崎」は、川の前(前)いわゆる利根川の南側の地という意。「砂山」は、文字通り自然堤防である砂丘から名付けられた名。「須影」は、須は州で、水流で運ばれた土砂が堆積して、水面上に現れたところ、影は、その背面、いわゆる利根川によって運ばれ堆積した砂丘の背面(北側)の土地の意。「加羽ヶ崎」は、かつては蒲ヶ崎と書いたと記されている。崎には南側の意とともに突き出した先端との意もあり、ここの崎は後者で、利根川の屈曲点に位置する蒲の生えている地の意と思われる。</p> <p>これらの地名から察するに堀口氏説の最も古い流路(手子堀用水路筋)の頃に付けられた地名と思える。</p> <p>関東平野には、関東造盆地運動という地殻変動があり、約2200万年前から現在に至るまで、その影響による沈降運動が続いているという。その中心地が加須で、それにより作られた低地を加須低地と呼んでいる。今でも年間2ミリ、沈降しているといわれている。</p> <p>以上から、利根川・渡良瀬川の堆積土砂により後退した奥東京湾の跡に出来た平地に、人が住み始めたのは、地名の由来から鑑みると、利根川が手子堀用水路筋を流路としていた頃と思える。それを証明するような地名が須影の小名にある。「渡り川」である。手子堀用水路に面する地名で、かつて旧利根川の津(渡船場)であったのであろう。</p> <p>しかし、この須影地区も関東造盆地運動の影響を受ける加須低地に属しており、それらの遺跡も地中深く埋もれて、発見の機会に恵まれない状況となっている。</p> <p>羽生市には、新郷古墳群、羽生古墳群、村君古墳群、尾崎古墳群、今泉古墳群と古墳が存在するが、すべて市北部地域にあり、市南部地域には見当たらない。関東造盆地運動による地盤沈下により、地下深く埋没して目に見えないものと思える。昭和54年に水道工事により偶然発見された小松埋没古墳がその証しとなっている。小松埋没古墳が地表より3m下となっているところからみると、この須影地区にも埋没した須影埋没古墳群があるのかもしれない。</p>	<p>645 大化の改新始まる</p> <p>672 壬申の乱</p> <p>710 平城京遷都</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
715	霊亀 1	里を郷と改めるとともに、郷の下に里を設ける、いわゆる郷里制が制定された。大化改新以来、国・郡・里の3段階が、国・郡・郷・里の4段階となった。	
723	養老 7	4月 田地の不足が進む中、新たに荒地を開墾した者には3代目（本人・子・孫）まで、古い溝や池を利用して開墾した者には1代（本人）に限り、その土地の所有を認めるとした三世一身の法が施行された。	
743	天平 1 5	5月 三世一身の法では、その期限が切れると土地は国に収められるため、期限が近づくと耕作意欲を失い、墾田は再び荒れてしまうこととなった。 そこで、政府は、三世一身の法を廃し、自ら開墾した土地は、いつまでも私有地として所有できるとした墾田永年私財法を發布した。ただし、王臣家の私有地の増大を防ぐため、位階に応じた面積の広さを制限した。	
794	延暦 1 3	源順撰『倭名類聚抄』によると、当時の埼玉郡には、埼玉郷・草原(かやはら)郷・笠原郷・太田郷・余戸郷の5郷があったとある。須影・羽生・志多見・加須のあたりは草原郷であったという説もある。	794 平安京遷都
平安時代		騎西付近一帯の地は私市氏が領しており、私市家景の第1子は河原村に住して河原権守と名乗り、第2子忠家は草原郷に住して草原氏を名乗り、そして第3子の長久は私市氏を継いでいる。草原忠家は、草原郷のどこに住したのか。また、忠家と須影地区との関連は。	
1181	治承 5	『吾妻鏡』の二月小十八日の条に葛浜郷に葛浜四郎行平の名が記されている。「大河戸太郎広行、同(清久)治郎秀行、同(高柳)三郎行元、同(葛浜)四郎行平以上四人」。須影村周辺は、この頃は、葛浜郷に属しており、葛浜四郎行平もこの周辺に居していたと思える。	1159 平治の乱 1181 平清盛没
		この頃は、武蔵武士の多くが荘園を根拠地として発展していた時代である。 『吾妻鏡』に、南羽生駅西側の地に葛瀬氏館跡と言われている地があるとある。 須影村(大字須影)にも武蔵武士が住を構えていたと思える。	1185 平氏滅亡

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事								
		<p>須影八幡宮の黒松に、次のような伝説が伝えられている。</p> <p>その1 源頼朝旗掛けの松伝説 源頼朝が奥州征伐(1189年)の途中、八幡宮に立ち寄り、軍を休ませるとともに、戦勝を祈願した折、松に旗を掛けたといわれている。</p> <p>その2 弁慶の杖伝説 奥州に向かう弁慶が八幡宮に寄り、杖を境内に刺したまま立ち去った。その杖が松となったという。</p> <p>葛瀬氏が葛浜氏の一族とすれば、この葛瀬氏が奥州征伐に向かう頼朝を須影の郷社に案内し、それを機に鶴ヶ岡八幡宮から八幡大菩薩を分祀したのかも知れない。</p> <p>【須影八幡宮】</p> <table border="0"> <tr> <td>平安時代か</td> <td>創建</td> </tr> <tr> <td>慶安2年(1649)</td> <td>御朱印19石5斗賜る 本殿改築</td> </tr> <tr> <td>元禄14年(1701)</td> <td>再建</td> </tr> <tr> <td>安政5年(1858)</td> <td>拝殿・向殿・幣殿改築</td> </tr> </table>	平安時代か	創建	慶安2年(1649)	御朱印19石5斗賜る 本殿改築	元禄14年(1701)	再建	安政5年(1858)	拝殿・向殿・幣殿改築	 <p>現在の八幡宮の松</p>
平安時代か	創建										
慶安2年(1649)	御朱印19石5斗賜る 本殿改築										
元禄14年(1701)	再建										
安政5年(1858)	拝殿・向殿・幣殿改築										
1185	文治元	<p>11月 後白河法皇は、源頼朝の代理で上洛した北条時政の圧力に屈し、義経追討のため、頼朝を日本国惣追捕使に任命し、諸国の荘園・国衙領に1反当たり5升の兵糧米の徴収を認めるとともに、頼朝を日本国惣地頭に任じ、荘園・国衙領の土地の支配と、それらを知行する下司・在庁官人の支配権を認めた。</p> <p>この権限にもとづき、頼朝は、全国に惣追捕使(後の守護)と地頭を配した。</p> <p>鎌倉幕府は、御家人の所領支配を保証する本領安堵と、新たに所領を与える新恩給与を地頭職への補任という手段で行っていった。また、惣追捕使も、もともと国司が有力な在地武士を国守護人として任命していたものであったが、その権限も握ることになった。</p>									
1185	文治元	<p>昭和30年3月に施行した下川崎地区耕地整理の際、鎌倉時代の陶質素焼の骨壺が出土した。</p>	1192 源頼朝征夷大將軍となる								

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
鎌倉時代	1230 寛貴 2	<p>正月 鎌倉幕府は、後藤左近入道道然を奉行とし、埼玉郡太田荘内の荒地を開墾させた。（『吾妻鏡』） この頃、須影あたりも盛んに開墾されたものと思われる。</p> <p>この頃から板碑が盛んに建てられた。 板碑は、秩父特産の緑泥片岩で作られているところから青石塔婆ともいわれている。鎌倉から室町にかけ埼玉県を中心として関東一帯に建てられたもので、中世仏教で使われた供養塔である。板材に、種子・被供養者・供養年月日等が刻まれている。</p> <p>昭和54年に作成された『羽生市板石塔婆』（平井辰雄氏調査）に、須影地区内の塔婆として下記の24枚が記されている。</p> <p>なお、須影地区最大のものは、須影運動公園にある高さ2.27mの板碑で、建立年は不明であるが、大日如来の種子のもと、「光明遍照十方世界 念仏衆生摂取不捨」と刻されている。秀安の踏切附近で出土されたが、暫く間、用水に架かる橋として利用されていた。</p> <p>【須影地区の主な板碑】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1268 文永 5 須影個人宅所蔵 1269 文永 6 砂山で出土、島山寺安置 1269 文永 6 浄林寺境内安置 1298 永仁 6 昭和30年秀安鷲宮神社前の堀から発見された 1326 正中 3 昭和33年須影八幡宮西貯水池工事中出土、年号の左右に花瓶がある 1345 貞和元 上川崎で出土 1349 貞和 5 加羽ヶ崎墓地安置 1354 文和 3 須影八幡社西方から出土 1356 文和 5 須影個人宅所蔵 1361 延文 6 須影個人宅所蔵 1367 貞治 6 大正年間に秀安で出土 1372 応安 5 須影個人宅所蔵 1480 文明 1 2 須影小学校に所蔵されていた 文明 須影個人宅所蔵 設立年不詳 須影運動公園内にある2.27mの板碑を含め大字須影地内に8基、及び下川崎地内に1基があると記されている。 	<p>1274 文永の役</p> <p>1281 弘安の役</p> <div data-bbox="987 1055 1367 1581" data-label="Image"> </div> <p>須影運動公園の板碑</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
		『埼玉の神社』に、中岩瀬の伊奈利神社のある地は、往古宮崎山岩瀬の渡しという武蔵野の名所であったとある。	
1310	延慶 3	この頃成立した夫木抄（夫木和歌集）（藤原長清撰 万葉以後の歌集・歌合・百首歌など勅撰に入らない歌を収めて分類した歌集）に「舟とむる岩瀬のわたり小夜更けて宮崎山を出づる月影 加茂重敏」とあるが、この宮崎山は今の砂山あたりではないだろうかという人もある。	1333 北条氏滅亡
室町時代 (1334～)		砂山庚塚から昭和初期、室町時代の有釉陶器骨壺が出土している。	1338 足利尊氏征夷大將軍となる
貞治年間 (1362～67)		加羽ヶ崎は、記録によると貞治年間に開けたとあり、加羽ヶ崎八幡社もその頃、創建されたと思える。明治6年に村社となり、明治17年に稲荷社を合祀して、八幡稲荷神社となった。	
1397	応永 4	足利氏満により葛浜郷の一部が鎌倉黄梅院へ寄進された。	1392 南北朝合一
1404	応永 11	岩松文書の内、岩松左京太夫将国本領所の注文の条に「武州春野原秀泰郷 応永十一甲申年四月七日 沙弥」と記されている。この秀泰は今の秀安と思われる。	
1461	寛正 2	3月21日 下川崎の古利根川田中塚に白幣が流れ着き、水野貞重がこれを祀り田中明神と号した。 【田中神社】 ・寛正2年(1461) 田中明神創建 ・文禄3年(1594) 現会の川堤上に移設 ・明治41年(1908) 稲荷社・巖島社・頭殿社・八幡社・天神社を合祀 ・昭和5年(1930) 本殿改築	1467 応仁の乱 1485 山城国一揆 1488 加賀一向一揆
1499	明応 8	8月 下川崎の円福寺が創建された。愛宕山薬王院という。開基は僧堯印、新義真言宗、当初の本尊は薬師如来であったが、現在は不動明王となっている。元禄11年(1698)、明治8年、平成2年に本堂が改築されている。	



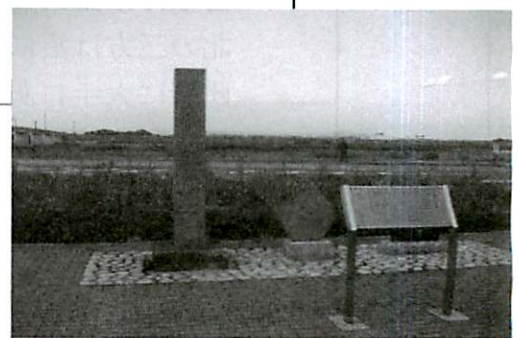
現在の円福寺

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1572	元亀 3	<p>加羽ヶ崎宝光院に阿弥陀仏が奉納される。</p> <p>昭和 5 8 年に、加羽ヶ崎共同墓地の霊園整備とともに、墓地本堂の建設が行われ、その折、旧宝光院に安置されていた阿弥陀仏が元亀 3 年に奉納されたものであることが分かった。</p> <p>【宝光院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元亀 3 年 阿弥陀仏奉納 ・昭和 5 8 年 本堂改築 墓地整理 ・平成 2 3 年 本堂修復 	<p>1575 長篠の戦い</p> <p>1582 本能寺の変</p>
1574	天正 2	<p>閏 1 1 月 越相同盟の崩壊を機に、羽生城は北条氏の攻撃を受けるようになり、ついに自落、羽生城は北条方の忍城主成田氏の属城となった。</p>	
1590	天正 1 8	<p>4 月 豊臣秀吉軍 2 0 万余が小田原城を包囲、3 ヶ月の籠城後の 7 月 5 日、北条氏直が投降自決し、北条氏は滅亡した。7 月 1 3 日、小田原討伐の論功行賞により、徳川家康に、その北条氏の旧領の関東 8 カ国が与えられた。8 月 1 日に徳川家康が関東に入国、関東の各城に家来を配置した。</p> <p>羽生城には、大久保忠隣が 2 万石で入城した。忠隣は、2 万石の知行のうち 2 千石を叔父大久保彦左衛門に与えている。城代家老には、元羽生城主である木戸忠朝の家臣であった鷺坂道可が任命されている。</p> <p>【新編武蔵風土記稿による羽生城の姿】</p> <p>當城は平城にして西を首とし、東を尾とし、東南北の三方は沼にして、西の一方のみ平地に続き、此所に大手口ありし由、本丸と二丸の境と覚しき所に、土手の蹟残り、何様堅固の体なり、大手を入りて二丸あり、そこの廣さ東西南北共に三十間余、それより橋を渡りて本丸に至れり、此所は少しく地高く、形円かにして、東西六十間余、南北四十間余、ここより長に當り、天神曲輪と云あり、南の方に小沼と云沼一ヶ所、又北の方にも今はわづかの蓮池及び蒹葭生ひ茂れる、広き沼あり、何れも城ありし頃固めの沼なりしと。</p>	<p>1590 小田原開城</p>




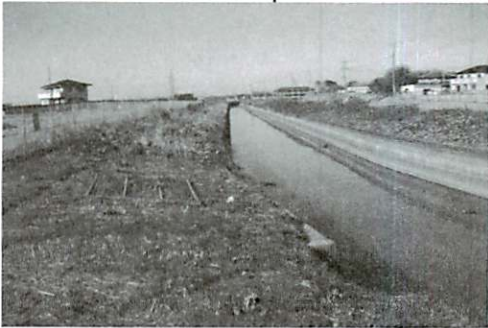
宝光院阿弥陀仏



西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
天正末年		砂山の『愛宕神社縁起』に、この頃、利根川決壊により田畑が崩壊したとある。	
1592	文禄元	<p>8月15日、島山寺開基實山祖真庵主が没した。開山は足立郡箕田村宝持寺第8世住職了山貫達で、慶安元年(1648)12月28日に没している。曹洞宗永平寺派で砂金山と号し、本尊は釈迦如来である。慶長6年(1601)9月3日付けの羽生藩奉行佐伯図書の手紙に「島山寺は藤井源長寺の末寺から離れ、箕田の宝持寺から貫達が来て開山となった」とある。島山寺過去帳には、初筆が元和2年(1616)となっている。</p> <p>【島山寺】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文禄元年(1592) 開基實山祖真庵主没 ・慶安元年(1648) 開山了山貫達禅師没 ・享保5年(1720) 鐘楼建立 ・昭和17年(1942) 鐘供出 ・昭和39年(1964) 新墓地へ移転 ・平成5年(1993) 墓地修復移転 	1592 文禄の役
1592	文禄元	<p>忍城修復を完了した松平家忠が上新郷村の榎の渡しから舟で旧利根川(会の川筋)を通り、上代まで転封していった。砂山村・川崎村などを通ったと思える。天正18年(1590)、家康が関東に入府、忍城は家康4男の松平忠吉に与えられたが、家康は、石田三成による水攻め等により荒れた城に幼い忠吉を入城させることを懸念し、松平家忠にその修復を命じた。家忠は、その功により下総国上代1万石へと栄転転封となった。その折、家忠は忍から上代まで利根川(現・会の川)を舟で転封していった。</p>	
1594	文禄3	田中坨にあった田中明神を古利根川堤に移し田中大明神と称した。	
1594	文禄3	忍城主松平忠吉が小笠原三郎左衛門に命じて、南流していた利根川を上川俣で締め切った。	
1595	文禄4	2月 羽生藩城代家老の鷲坂道可が死去し、徳森伝蔵・桑原九兵衛元次・佐伯図書繁元が城代家老となる。	




川俣締め切りの碑

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1595	文禄4	<p>京都愛宕社の霊を分祀し砂山愛宕社を創立した。</p> <p>『愛宕神社縁起』に、天正末年に利根川が決壊し、砂山の地が全壊したことから文禄年間に再び開墾し、村を起した。そして、愛宕社を勧請したと記されている。</p> <p>砂山上宿の旧県道の屈曲点に文政10年(1827)に建立された「愛宕大権現」と記された石祠がある。身近な神様として、権現山から分祀されたものと思える。</p> <p>【砂山愛宕神社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文禄4年(1595) 権現山に建立 ・慶長3年(1598) 社殿再建 ・嘉永3年(1850) 社殿新築移転 ・明治5年(1872) 村社となる ・昭和40年(1965) 天神社及び稲荷社を合祀 ・後 稲荷社を分祀 ・平成7年(1995) 本殿・拝殿修復 	 <p>愛宕大権現の石祠</p>
1598	慶長3	<p>砂山愛宕社を再建、村鎮守と称した。小松村小松寺の宝珠坊が別当となった。</p> <p>【小松寺僧坊】</p> <p>小松寺には、僧坊として、法蓮坊、安養坊、善林坊、宝珠坊、不動坊、山本坊、明見坊があったが、明治維新まで存在していたのは、明見坊と山本坊だけであった。神仏分離令により廃寺後は、小松寺の住職が小松神社の宮司に、明見坊と山本坊の僧が禰宜となった。宮司になったのが小松家で、禰宜になったのが西小林家と東小林家であった。</p>	1598 豊臣秀吉没
1601	慶長6	<p>岡田十松建立墓碑によると、尾張星崎城主岡田長門守善直(3万石 岡田十松7世の祖)の亡んだ後、その子の玄蕃利家は佐野修理大夫に仕えていたが佐野氏が亡んだので、この年、砂山に隠れたとある。</p>	1600 関ヶ原の戦い
1601	慶長6	<p>5月17日に羽生藩から出された文書に、「須影会下山に源長寺の末寺である浄慶寺があるが中絶状態である」とある。古老の話では、須影愛宕神社のあるあたりが会下山(えげやま)といわれていたという。</p> <p>また、須影小磯家文書にも「当領須影村菩提寺之義ハ足利天下之頃ハ上藤井村源長寺旦那与申伝へあり」とある。</p>	<p>1603 徳川家康征夷大將軍となる</p> <p>1605 徳川秀忠征夷大將軍となる</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1614	慶長19	大久保相模守が改易され羽生城は廃城となった。その後に、城も破却されたとある。 『新編武蔵風土記稿』に、「慶長十九年此地御料に属し、其後城も破却せられぬ」とある。	1614 大阪夏の陣
1614	慶長19	大河内金兵衛久綱が羽生領代官となる。	1615 大阪冬の陣
1616	元和2	砂山を除いた須影地域が徳川忠長の領地となった。	1616 徳川家康没
1617	元和3	羽生領代官の大河内金兵衛久綱が、手子堀、午の堀を開削する。	
1621	元和7	上川崎村などにある志多見溜井が大河内金兵衛久綱により完成した。 羽生領代官大河内金兵衛は、元和7年に、志多見・礼羽地区の水の便を図るため、旧利根川の自然の広がり（川幅18間余）を利用し、下手に堰を設けて羽生地域の残水を集めた溜池を造成した。この溜井跡は昭和30年に加須市の文化財に指定された。	
			
		志多見溜井跡	
1624	寛永元	利根川の本川俣村千手院裏が破堤する。	
1625	寛永2	金兵衛は、志多見溜井から灌漑用水路を分水開削した。人々はその水路を金兵衛堀と呼んだ。	
寛永年間 (1624-44)		この頃、須影蓮華寺が建立される。 『小磯家文書』によると、この地に多門寺（正能村龍花院末寺）という寺があった。その後、寛永に至り蓮華寺を建立、本山は高野山龍光院であったが、5世了恵法印の代に京都智積院の末寺となったとある。 爾来、蓮華寺は新義真言宗月光山清浄院と号した。本尊は不動明王であった。 明治4年、廃寺となる。	1623 徳川家光將軍になる
1630	寛永7	9月21日 須影蓮華寺の開山長義が没する。	
1632	寛永9	徳川忠長の領地が没収され、御料となる。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1635	寛永12	羽生領代官大河内金兵衛により日向堀が開削された。	
1637	寛永14	<p>正月 上川崎天神社が創立された。京都北野神社を分祀し、雁久保に社殿を建立した（『社伝』）。その後、承応元年(1654)正月に現在の箕輪の地に遷座した。慶安2年(1649)に御朱印20石1斗を賜る。昭和3年(1928)に本殿を、昭和42年に拝殿を新築した。</p>	 <p>現在の川崎天神社</p>
1639	寛永16	<p>6月 寛永4年の島原・天草の乱を契機に、幕府は宗門改役を設け、幕府領での宗門改めを徹底した。寛文5年(1665)には、諸藩にも実施され、寛文11年からは毎年宗門改帳の作製を義務づけた。内容は家ごとに、家族の名前、年齢、続柄、所有の家畜などを記し、末尾に寺院が自分の檀家であることを証明する印を押した。この宗門改めにより、住民全員がどこかの寺院の檀家とならなければならなくなったことから、各地で寺院が、神社の別当寺として建立されていった。</p>	1639 鎖国令
1644	正保元	<p>8月 下川崎浄林寺が創建された。今成利陀（徳誉上人）が信州松本清水山浄林寺の本尊を分霊したもので、清水山と号す。浄土宗、本尊は阿弥陀如来である。『羽生昔がたり』に、「上人は、暗く打ちひしがれた村の様子に心を痛み、阿弥陀様にねんごろに村の平和を祈りました。子孫が栄えるように子育て地蔵も建立し救済の手立てをとりました。村中で心を合わせて念仏を唱えた観音堂（千体堂）も浄林寺で引き受け、本尊の阿弥陀三尊と一つの屋根の下に千体仏を奉り、それぞれの仏様が役割を担い合って人々の幸せを守るように尽くしました。」と記されている。古老の話によると、浄林寺の創建時、檀徒の中には祖先の仏碑を夜陰にまぎれ、円福寺から浄林寺へ移した者もいたという。昭和47年に本堂改築している。宝永2年(1705)に建立された鐘楼の鐘も昭和17年に供出されたが、昭和62年に再建された。</p>	 <p>現在の浄林寺</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1644	正保元	『正保改』には、「蒲ヶ崎」と記載されている。	
1646	正保3	大河内金兵衛久綱没す。岩槻平林寺(現新座市)に葬る。 【大河内金兵衛久綱】 元亀元年(1546)に大河内秀綱の子として生まれる。慶長19年(1614)に羽生藩の改易により幕府領となったことにより、それを管轄する羽生領代官として着任。元和4年(1618)には、忍城の城番を兼務、この城番は、金兵衛の子の松平信綱が入城する寛永10年(1633)まで続いた。寛永12年には関東幕領支配となる。寛永15年にお役御免後、正保3年(1646)に没している。享年76歳。 事績として、北方用水路及び南方用水路の開削、志多見溜井の造成等水事業に貢献している。	
1646	正保3	『渋井徳次郎聞書』に、この年に川崎村が上川崎村と下川崎村に分離したとある。 『新編武蔵風土記稿』に「分れし年代は知らず、寛文六年の再検地帳に上下と載せて分ちたれど、これは私のことなるべし、又中村呼しきとは其後の事にて下分より分るとのみいへり、されば上中下の唱へは何れ元禄以後の事にして、今は全く三村に呼べり、爰をもて地境廣狭等も判別して云がたければ、合て其大抵を載す」とある。 【川崎村の分村はいつか、記録で追ってみた】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正保3年(1646) 上川崎村と下川崎村に分離 (『渋井徳次郎聞書』) ・ 寛文6年(1666) 上・下川崎村の2村とある (『寛文6年検地帳』) ・ 寛文6年(1666) 下川崎村から中川崎村を分離 (『渋井徳次郎聞書』) ・ 元禄12年(1699) 川崎村となっている (『元禄御検地帳』) ・ 元禄以降 上・中・下川崎村の3村となる (『新編武蔵風土記』) ・ 享保11年(1726) 上川崎村の記録がある (『上川崎村年貢割付状』) ・ 宝暦13年(1763) 中川崎村の記録がある (『村明細帳』) ・ 天保5年(1834) 川崎村となっている (『神戸橋建設碑』)(『天保御検地帳』) ・ 文久元年(1861) 中川崎村の記録がある (『和宮助郷記録』) 	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1648	慶安元	12月28日 島山寺の開山了山貫達が没した。59歳。	
1649	慶安2	<p>2月26日 幕府から「慶安御触書」が発せられる。</p> <p>内容は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の法令を怠ったり、代官のことを粗末にせず、名主や組頭を尊敬すること。 ・酒や茶を買って飲まないこと。 ・雑穀を食べ、米を多く食べ過ぎないこと。 ・麻と木綿のほかは着てはいけない。 ・早起きをし、朝は草を刈り、昼は田畑を耕作し、夜は縄を緋い、俵を編むこと。 ・煙草を吸わないこと。 	
1649	慶安2	<p>8月24日 徳川幕府から、須影八幡社が19石5斗余の御朱印地を、上川崎天神社が20石1斗の御朱印地を、それぞれ賜る。</p> <p>【羽生市内寺社御朱印】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡社（常木） 28石6斗 ・建福寺（上羽生） 24石 ・富徳寺（上手子林） 20石6斗 ・長光寺（今泉） 20石3斗余 ・正光寺（蓑沢） 20石3斗余 ・天神社（上川崎） 20石1斗 ・正覚院（上羽生） 20石 ・源長寺（上藤井） 20石 ・岩松寺（上岩瀬） 20石 ・熊野白山社（小松） 20石 ・医王寺（上岩瀬） 20石 ・八幡社（須影） 19石5斗余 ・長善寺（発戸） 16石3斗 ・愛宕社外（上川俣） 15石5斗余 ・延命寺（堤） 15石 ・法性寺（上新郷） 15石 ・不動院（名） 12石6斗 ・千手院（本川俣） 10石 	
1652	承応元	<p>この頃、須影村の東曜寺が蓮華寺三世の僧淳恵によって蓮華寺門徒寺として創立された。恵日山と号し、本尊は地藏菩薩であった。</p>	



東曜寺地藏尊


西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1652	承応元	正月 上川崎字雁久保にあった天神社を現在地に移した。	
1653	承応2	高室四郎右衛門・南条金左衛門が上川崎村及び下川崎村を検地した。	
1654	承応3	代官曾根五郎左衛門が須影村及び加羽ヶ崎村を、小泉次太夫が砂山村及び下羽生村を検地した。 当時の検地帳が小磯賢之助宅に保管されている。	
1654	承応3	5月21日 浄林寺の開山徳誉空無利陀が没した。	1657 江戸明暦の大火
1658	万治元	9月 須影村の観音堂（東曜寺持）が蓮華寺三世の僧淳恵によって建立された。堂内に運慶の作と口伝されている千手観音立像があった。明治5年の廃寺後は須影村の檀家により大切に守られている。	
1659	万治2	砂山新田の伊奈利社が再建された。	
1660	万治3	葛西用水が完成した。 葛西用水は、時の関東郡代伊奈半左衛門忠克のもと島村又右衛門好勝が造成した。島村氏はそのま現地に居し、子孫は今でも中手子林に居している。	
1672	寛文12	2月28日、秀安長泉寺開山栄元が没した。長泉寺は新義真言宗、御嶽山医王院と号し、上羽生正覚院の末。	1663 殉死禁止令
1688	元禄元	小泉次太夫が秀安村を検地した。	1680 徳川綱吉
1688	元禄元	島山寺本堂を建て替える。須弥壇及び前机の彫刻はこの時の制作か。本尊釈迦如来像（江戸時代初期作）。	1687 生類憐みの令
1689	元禄2	砂山の磯又史郎が下宿の山林に天神社を創立した。 宝永元年(1704)に上宿花見橋に移す。	
1694	元禄7	5月20日 下羽生眞光寺開山栄秀が没した。 眞光寺は、新義真言宗、天照山文殊院と号し、上羽生正覚院の末。 本尊は大日如来（江戸時代中期作）である。	



現在の眞光寺

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1698	元禄 1 1	円福寺の空照法印が堂宇を再建した。	
1698	元禄 1 1	砂山村、旗本富田甲斐守の知行地となる。	
1699	元禄 1 2	砂山の磯又史郎が愛宕社に土地を寄附した。	
1704	宝永元	砂山天神社を下宿の山林から上宿 5 3 3 番地に転社した。 明治 4 0 年 1 1 月 2 7 日に愛宕社に合祀された。	1702 赤穂義士討入
1705	宝永 2	下羽生村の御料の内を裂いて岩槻藩主小笠原佐渡守及び旗本新見家に賜った。	
1705	宝永 2	須影村・加羽ヶ崎村が、旗本藤枝若狭守の知行地となる。	
1705	宝永 2	上川崎村・下川崎村を旗本井上遠江守正長に賜った。 井上正長は正徳 3 年 (1713) に下妻藩主となる。	
1706	宝永 3	正月 蓮華寺鐘楼の鐘を鑄造した。	
1711	正徳元	秀安村が旗本藤枝若狭守の知行地となる。	1709 徳川家宣
1711	正徳元	所替あり、下羽生村の佐渡守に賜った地を有馬彦太郎及び一柳玄蕃頭に賜った。	
1714	正徳 4	島山寺に庚申塔（青面金剛像）が建立される。 この頃、前後して、各地に庚申塔が立てられる。	1713 徳川家慶 1716 徳川吉宗 1716 享保の改革
1719	享保 4	羽生領南方用水が出来た。 代官伊奈半左衛門忠克は、葛西用水と同時に葛飾郡高柳村と埼玉郡間口村の間に於いて古利根川をせき止め、琴寄溜井を作り、近郷の用水として使用していたが、用水不足となったため、天保 1 1 年 (1840) に至って伊奈忠達は、石川伝兵衛とともに、改めて上川俣地内に坎樋を設け、日向堀を通じて利根川の水を引き、この溜井にたたえた。	
1721	享保 6	下羽生村の甲府領が廃された後、御料となり、その後 3 分割された後も御料であった地が旗本木村春徳の所領地となった。	1721 塙保己一没

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1722	享保 7	<p>秀安鷲宮神社が、長泉寺恵鏝により創建される。</p> <p>【鷲宮神社】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・享保 7 年(1722) 創建 ・元明元年(1781) 改築 ・天保 9 年(1838) 改築 ・明治 4 年(1871) 村社となる ・昭和 2 6 年(1951) 改築 ・その後、諏訪社を合祀  <p style="text-align: center;">現在の鷲宮神社</p>	
1724	享保 9	<p>4 月、会の川「志多見溜井」をめぐる、上川崎村・砂山村・串作村の 3 箇村は、志多見村との間に境界の件で訴訟を起こす。</p>	1725 新井白石没
1728	享保 1 3	<p>秀安の長泉寺（新義真言宗御嶽山医王院と号す）の不動明王座像が京都の仏師福岡惣兵衛により作られる。</p> <p>昭和 4 4 年に長泉寺薬師堂の改築に伴い、本尊の不動明王像も修理した折、体内から製作者及び制作年代が記された木札が見つかった。</p> <p>その木札には次のように記されていた。</p> <p>【長泉寺不動明王木札】</p> <p style="text-align: center;">表 為榮繫榮山成正覚也 貞宏 于時享保十三戊申歳十一月吉旦 裏 施主長泉寺十四代住恵鏝 享保 十三年 大仏工京都惣兵衛</p>	
1729	享保 1 4	<p>2 月 秀安長泉寺第 1 4 世恵鏝により本尊不動明王が安置される。</p> <p>平成 2 3 年に、郷土資料館の社寺調査において、不動明王の台座裏に文字を発見、享保 1 4 年に安置され、弘化 2 年(1845) 3 月に彩色を行ったと記されていた。</p> <p>【不動明王台座裏に記された文】</p> <p style="text-align: center;">施主 長泉寺第十四代恵鏝 為榮繁榮山父母大菩提 享保十四己酉載二月廿八日 金貳分寄進 真誉 弘化二巳年三月 彩色 忍領下須戸村 細工人三代目間道</p>  <p style="text-align: center;">長泉寺不動明王像</p>	

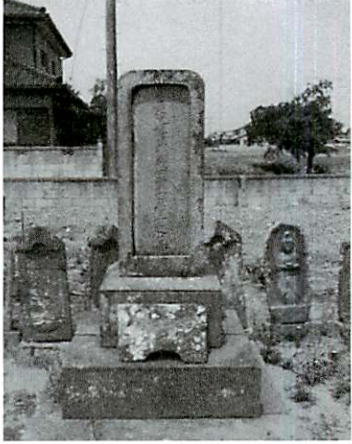

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1730	享保 15	<p>秀安村稲荷神社が江戸谷中の大円寺の笠森稲荷社から勧請建立した。</p> <p>【瘡守稲荷社】</p> <p>瘡守稲荷と言われ、明治15年の『正名学校連合村落地誌略』に「小社ナレトモ日々参拝ノ人絶エズ」とあるように、できものの神様、瘡瘡神として信仰を集めていたが、平成元年1月25日、不審火により焼失した。</p> <p>『羽生昔がたり』に、「豪華な社殿は千鳥の入り母屋造り、軒下に龍の彫刻・獅子木鼻の飾り・高床式廻り廊下・鼻を長く突出した狐の顔をつけた一文字瓦（鬼瓦）・巴瓦に三つ巴の紋・軒瓦に菊の紋」とあり、さらに奉納された朱の鳥居が参道に連なっていたとある。</p> <p>初午の日は、晴着姿の女性達で一日中賑わっており、羽生駅から臨時バスが出た程であったという。</p> <p>また、その日は学校も半日で下校になったという。</p> <p>祭神：宇迦之御魂大神 社殿：間口3間 奥行6間 境内：30坪</p>	
1742	寛保 2	<p>下羽生村の木村春徳の分を戸田大隅守に賜った。</p>	
1742	寛保 2	<p>2月、島山寺に「不許葷酒入門内」の碑が建立される。</p>	
1755	宝暦 5	<p>須影愛宕神社が建立される。</p>	
1757	宝暦 7	<p>宝暦七年下妻藩の村高帳による上川崎村・中川崎村・下川崎村の石高は次のように記されている。</p> <p>上川崎村 225石9斗 上川崎村新田 5石7斗9升5合 中川崎村 319石5斗6升1合 下川崎村 383石8斗5升8合 下川崎村新田 6斗6升</p> <p>宝暦9年の『中川崎村明細書』にも石高は、319石5斗6升1合とある。</p>	<p>島山寺「不許葷酒入門内」の碑</p>
1759	宝暦 9	<p>普請役永井吉次の指揮により、上川崎村地先の志多見溜井の樋管の伏せ替えが行われた。</p>	


西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1765	明和2	<p>神道無念流第3代の祖岡田十松吉利が砂山に生まれた。</p> <p>【岡田十松】</p> <p>十松は15歳の時剣術を志多見の松村源六に学んだが、非常な上達ぶりであったので、源六はその師であった江戸の戸賀崎熊太郎のところに入門させた。十松はその道場において、22歳で免許皆伝となった。寛政7年(1798)に師匠の熊太郎が郷里の清久村(現久喜市)に退いた後は、そのあとを継ぎ、教授すること30年、門徒数も3千人を越え、江戸第一と称されるようになった。門下からは、斉藤弥九郎・藤田東湖・江川太郎左衛門等、幕末から明治にかけて活躍した人が多く出ている。文化3年には、父又十郎のために砂山村の墓地に墓碑を建てている。</p> <p>文政8年に没している。</p>	
1774	安永3	島山寺に鐘楼を建て、新鑄した鐘をかけた。	
1781	天明元	長泉寺秀宣により秀安村鷲宮神社が建替られる。	1781 上州一揆
1782	天明2	日光道中の中田栗橋の助郷である関宿領が、代助郷として羽生領の13ヶ村(須影・上手子林・中手子林・下手子林・町屋・志多見・馬内・南篠崎・南大桑・花崎・久下・岡古井等)を指定し自己の休役を計った。ところが志多見・馬内は中山道鴻巣宿の助郷でもあったので拒否した。調査のため出張検分が行われ、その結果羽生領はその助郷は免除された。	
1783	天明3	<p>7月6日 浅間山大噴火、秩父では灰砂4~5寸、須影地区でも厚さ1寸以上となった。葛西用水、見沼用水等は流れ来る灰砂で河床を高めたため、用水引き入れに支障をきたしたほどであった。</p> <p>なお、この時の火砕流により、上野国の旧鎌原村では全村が埋没してしまった。</p>	1783 天明の飢饉
1785	天明5	須影村・加羽ヶ崎村・秀安村は藤枝若狭守の子孫外記が吉原の遊女と心中をはかったため、旗本藤枝家は廃家となったことから、再び御料となった。	
1785	天明5	再び関宿領が羽生領13ヶ村を代助郷として指定。	



西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1786	天明 6	再び、出張調査となり、須影・上中下手子林・志多見の5ヶ村は代助郷を免じられた。	1787 徳川家斉
1786	天明 6	7月 関東大洪水、利根川が上川俣村地内龍蔵において堤防が押し切られ、羽生・栗橋・岩槻・草加等に多くの被害がでた。	1787 寛政の改革
1788	天明 8	下羽生村の一柳氏の知行を上り御料となった。	
1790	寛政 2	須影村・加羽ヶ崎村・秀安村を本多弾正に賜った。子孫越中守で廃藩置県となった。	
1791	寛政 3	再び、利根川の上川俣村龍蔵において破堤があった。そして同年8月にも下村君地先で破堤があった。	
1792	寛政 4	志多見溜井の手入れが再び行われた。この後文化6年・文政4年・天保8年に修築が行われた。	
1792	寛政 4	3月 戸田大隅守の生祠「戸田宮」が下羽生村に建てられた。なお、この生祠は平成22年に筆者が調べた時には下羽生の小磯武治家にあったが、25年に再調査した時には消失していた。 正面に「戸田宮」、側面に「寛政四年三月 下羽生村惣百姓」と記されていた。	
1792	寛政 4	江戸力士武蔵川大治郎が須影村で生まれる。 【武蔵川大治郎】 武蔵川大治郎は、寛政元年、須影村で生まれ、江戸上京後、条川部屋に入門し、文化10年(1813)に初土俵、文政10年(1827)に入門、最高位は前頭3枚目であった。 天保9年(1838)に引退、その後は年寄武蔵川として相撲会所の組頭(今の相撲協会理事)となり、後進の育成に力を注いだ。 嘉永元年(1848)に55歳で没している。当初は江戸浅草の大乗院に葬られたが、後に生家である須影村蓮華寺の平井家の墓所に分骨された。	



武蔵川大治郎

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1811	文化8	下羽生村の天明8年(1788)に上地された、かつての一柳氏知行地を押田丹波守に賜った。	
1813	文化10	9月 岡田十松が父又十郎利達のために砂山村の墓地に、立原翠軒書の墓碑を建てた。立原翠軒は、立原萬ともいい、水戸の儒者『大日本史』の勘校に非常な功を立てた。文政6年、江戸で没した。80歳であった。書家としても有名であった。この碑は、昭和31年に羽生市文化財に指定されている。	
			
			岡田十松建立墓碑
1820	文政3	8月15日 神道無念流の達人岡田十松が没した。享年56歳、東京牛込宝泉寺に葬られた。	
			1823 立原翠軒没
1828	文政11	5月 諸国大雨洪水、諸々の川が溢水した。埼玉郡は最も甚だしかった。	
			1827 小林一茶没
1829	文政12	須影村・秀安村の戸数は、それぞれ105戸、50戸とある。	1829 松平定信没
1834	天保5	3月 地域の人々の協力のもと会の川に神戸橋が建設された。その折に建立された「建設碑」は、その後、国道122号の拡幅整備に際して撤去され、放置されていたが、橋際の藤倉家の好意により保存された。貴重な遺跡である。碑文には、「河梁助行人 功德勝置郵」とある。河梁(川の橋)は行人(行きかう人)を助け、その功德は置郵(車馬の宿)に勝るの意となる。 【神戸橋碑文】 (正面) 河梁助行人 功德勝置郵 世話人 志多見 松村源六郎 川サキ 今成要助 神戸 嶋田左源衛 同 高野左内 (右側面) 天保五年三月吉日 神戸口人 寫崎伊助 (左側面) 助力(26村の名が記されている)	天保の飢饉
			
			神戸橋建設之碑

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1838	天保 9	<p>9月 秀安鷺宮神社が改築する。</p> <p>【鷺宮神社棟札】</p> <p>右御本社享保七癸卯長泉寺恵鏝代造立氏子助進天明元辛丑年建替今年迄六十年目同寺秀宣代氏子寄進天保九戊戌祀本社建替拝殿新造立天明元ヨリ今年迄五十八年目氏子寄進</p> <p>世話人 吉岡仁兵衛 川野辺善蔵 根岸喜代次郎 総氏子中</p>	
1839	天保 1 0	<p>1 1月 秀安上郷地蔵堂内に存する「道標」がこの頃に設置された。下羽生眞光寺脇の道標も同じ頃に設置されたと思える。両者とも、神戸橋の架橋に伴う交通量の増大に対応して設置されたものと思える。</p> <p>【秀安上郷地蔵堂道標の碑文】</p> <p>(正面) 弥陀 十六夜供養塔 東 ふとう岡一里 同□□町一里半</p> <p>(左面) 南 きさい二里 こふのす四里</p> <p>(右面) 北 羽生十八丁 同 たて林三里</p> <p>天保十己亥祀十一月吉日 羽生領秀安村上郷</p> <p>【下羽生眞光寺脇道標の碑文】</p> <p>(正面) 東 きさい ふとふ岡道 下羽生村</p> <p>(左面) 西 羽生町 十三町</p> <p>(右面) 北 村みち ふとふ岡道</p>	 <p>下羽生道標</p>
1840	天保 1 1	<p>この頃から須影・羽生地区にも青縞の製産が盛んに行われるようになった。</p> <p>木綿を原料とする青縞は、天明年間に騎西付近の農家の副業として始まり、雑縞で騎西縞と称せられた。後、文政8年に足立郡塚越の高橋新五郎が機台を改良して精巧なものを織出し、天保8年には機台120、藍甕300有余の染織工場となり、同11年にはその業を習い開業するものが数百人に達した。</p>	
1840	天保 1 1	<p>『鳩山村眞光寺文書』に、砂山村名主磯田甚左衛門宅で、富徳寺・延命寺等、富田氏所領内の5つの寺への御朱印状(12代家慶・13代家定分)の交付が行われたと記されている。</p>	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1840	天保11	南方・北方用水の水量確保のため、利根川に上川俣堰が設けられる。	
1841			1841 天保の改革
1845	弘化2	2月 「六根清浄 お山は晴天」を唱え、富士山登頂することを心のよりどころとする富士講集団丸加講が諸井勇行により加羽ヶ崎村に設立された。丸加講は、明治初期には扶桑教丸加講と名を改め、最盛期には約400名を有する講集団であったが、富士講の衰退により、次第に減少し、昭和40年代後半には休止の状態となっていた。	 <p>丸加講本宮</p>
1846	弘化3	6月 6月16日からの長雨により、神流川・利根川が満水となり、同月28日夜10時頃、本川俣村字長宮において堤防が130間余にわたり決潰して、羽生領では床上浸水6～7尺に及んだ。	
1848	嘉永元	6月22日 江戸力士武蔵川大治郎が没する。享年55歳であった。浅草大乘院に葬られたが、本人の希望により両親の眠る郷里の須影蓮華寺墓地内の平井家墓所に分骨された。	 <p>武蔵川大治郎墓碑</p>
1849	嘉永2	砂山会の川の花見橋が木橋から石橋に再建された。丸太の桁が2本渡され、長方形の切石を横に数枚並べただけの橋であった。	
1850	嘉永3	7月 浄林寺の進亮和尚が堂宇を再建した。	
1850	嘉永3	9月 砂山愛宕神社が通称権現山（高さ7～8メートルの砂山で、愛宕山大権現が祀られていたことから名付けられた）から現在地へ転社、新造営する。氏子達が、もっこで山を築き、愛宕様は大八車で運んだという。	
1853	嘉永6	砂山の岡田七兵衛・田沼七左衛門の両人が先祖代々茶湯料として、土地若干を島山寺へ寄付した。	1853 ペリー来航


西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1854	嘉永 7	<p>6月 諸井勇行により須影蓮華寺境内に、富士塚が築造された。</p> <p>頂上には、富士講の本尊である仙元大菩薩が祀られるとともに、お鉢廻りまでも設置されている。</p> <p>現在は清水氏の所有となり、大切に保持されている。</p>	
1855	安政 2	6月、砂山村浅間大神が祀られる。	
1858	安政 5	<p>10月 下羽生天神社境内に桜井稻荷を建立した。江戸小石川柳町旧地頭新見金次郎邸内にあったものを、下羽生村戸長小磯桂助が、ここに勧請した。</p>	1854 日米和親条約締結
1858	安政 5	<p>11月3日 須影八幡宮の拝殿・向拝・幣殿の上棟式が行われた。</p> <p>棟札によると、潮元和尚の願主のもと、大工棟梁清水仙松尚通、棟司三村若狭正利・三村吉左衛門正弘の建築で、石原恒蔵主利・入江文治郎茂弘が彫刻したとある。</p>	
1861	文久元	<p>12月14日 砂山の鬼仏が没した。鬼仏は俗名を田沼次兵衛といい、惨化亭鬼仏・娑婆亭鬼仏・鬼仏居士などと称し、俳句・狂歌・書道・彫刻などに長じ、晩年は砂山の庚塚に別宅を建て、近郷の名人や風流人を招いて、風流な生活を送ったという。（『砂山・その周辺覚え書』）</p>	1859 安政の大獄
1861	文久元	<p>11月 中山道を上る皇女和宮の江戸入りのための助郷の命が、須影村・上川崎村・中川崎村・下川崎村・砂山村・秀安村・加羽ヶ崎村の各村に下る。</p> <p>その時に出された人足等はつぎの通りであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須影村 人足20人 馬2頭 15両 ・上川崎村 人足12人 7両2分 ・中川崎村 人足13人 8両2朱 ・下川崎村 人足10人 6両1分 ・砂山村 人足25人 10両2分2朱 ・秀安村 人足13人 8両2朱 ・加羽ヶ崎村 人足12人 7両2分 	



須影富士塚



明治37年の須影八幡宮

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1862	文久2	<p>4月 須影八幡宮に御神籤版木が寄贈される。</p> <p>版木には、「忍行田住 今津平兵衛彫」と製作者の名が記されている。</p> <p>この御神籤は、元三慈恵大師良源上人が創作した元三大師御籤であるが、吉凶については、元三大師のが大吉・小吉・吉・半吉・末吉・末小吉・凶の7種類であるのに対し、須影八幡宮の御神籤は、大吉・小吉・吉・半吉・末吉・凶に加えて、凶末吉、大凶、前凶後吉、前凶後小吉と11種類となっている。</p>	
1865	元治2	<p>4月 須影八幡宮に武蔵川大治郎により、勸進相撲の掲額が奉納された。</p> <p>この武蔵川大治郎は、7代目武蔵川大治郎の子の8代目と思われる。</p> <p>また、その掲額には、素人相撲の参加者の名が記されており、東大関として「荒砂長太郎」（本名：小磯長太郎）の名が記載されている。</p>	 <p data-bbox="1053 1010 1272 1039">現在の須影八幡宮</p>
1865	慶應元	<p>法眼雪兆の「白馬の図」を八幡宮に掲げた。</p> <p>雪兆は埼玉郡三俣村の人で、姓は堀越、字は紅潭、号を雪兆といい、寛政12年(1800)5月5日生、幼少より画を好み、長じて谷文晁に師事し、慶應元年3月に席画を天覧に供し、法橋に任じられ、11月には昇進して法眼となった。明治18年86歳で没した。</p>	
1865	慶應元	<p>茂木柳斎門下荻島村長島仁左衛門栄信等が須影八幡宮に算額を掲げた。この算額中にある長島栄信の問題は、ギリシャの幾何学者パッポスによって西暦300年頃に考えられているということで、須影地区の人々の能力の高さが偲ばれる興味深い絵馬である。</p> <p>算額とは、和算家(数学者)が考案した数学の問題や解答を板に記録して社寺等に奉納した額のこと、ちなみに安政6年(1859)に柳斎門下により奉納された小松神社の算額は昭和44年に市文化財に指定されている。</p> <p>なお、茂木柳斎とは、文化元年(1804)に中手子林村で生まれた関流和算の大家で、郷里で算学塾を開き、ここで学んだ弟子の塾を開き、学んだ弟子の数は千五百人に及んだという。明治35年85歳で没した。</p>	1867 大政奉還

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1867	慶應3	<p>11月 羽生陣屋が旧羽生城跡地に構築される。</p> <p>幕府は、関東地域の補強策として慶應3年3月、羽生周辺の18ヶ村を天領とし、武州町場村の羽生城跡地に陣屋を構築することとした。経費はその18ヶ村からの献金8,000両で賄うこととし、11月に着工された。その折、須影地区の下羽生村も、18ヶ村に包含され、下野国足利藩の支配地から天領となり、関東在方掛（旧関東郡代）木村飛騨守勝教の支配地となった。</p> <p>【羽生陣屋経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慶應3年12月 幕府は、羽生陣屋常駐兵として、羽生領18ヶ村から農民40名を集め、菘沢村の正光寺で訓練を開始した。 	
1868	慶應4	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應4年正月 羽生陣屋の農民常駐兵をさらに40名増員した。 ・2月24日に木村飛騨守勝教が関東在方掛を罷免されたことに伴い、翌25日には羽生陣屋の構築工事は中止となった。既に完成されていた11棟は忍藩に接收された。 ・3月8日 幕府軍約500名が羽生陣屋に到着し、先に羽生陣屋に入っていた幕府軍370名を含む約900名で羽生陣屋を出発、下野国梁田に向かった。 ・3月9日 梁田で官軍と激突、梁田戦争が起こる。 ・3月10日 梁田で幕府軍に勝利した官軍が羽生陣屋に進入、陣屋に残されていた鉄砲や弾薬を見て、官軍は幕府軍の後援隊と判断、羽生陣屋を焼き討ちしてしまった。 	
1868	慶應4	<p>3月11日 羽生周辺打ち壊し一揆が起こる。</p> <p>羽生陣屋の焼き討ちを契機に18ヶ村の農民達が一挙に暴発、羽生周辺において百姓一揆が起こり、羽生陣屋を誘致した本川俣村の堀越庭七郎をはじめとする豪農・商家が打ち壊しされていった。須影地区においても、下羽生村の出井熊吉宅がその対象となった。</p>	1868 鳥羽伏見の戦い
1868	慶應4	<p>3月 明治政府は、神仏分離の方針を決め、権現・午頭天王などの仏像を神体とすることを禁止し、神社から仏像・仏具の追放を命じた。</p>	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1868	明治元	上川崎の三の輪堂（雁久保にあった）も廃止され、本尊阿弥陀如来は浄林寺に移された。	1868 版籍奉還
1869	明治2	6月、士農工商等の身分制度が廃止され、公卿と大名を華族、平士以上の武士を士族、同心や陪臣を卒、農工商は平民とした。	1869 関所廃止
1871	明治4	1月15日 明治政府は上地令を發布し、幕藩体制の折に取得した寺社等の所領地を没収した。	1870 平民に苗字
1871	明治4	4月 建福寺にある「屋代義雄君墓碑」によると、泉藩は藩医屋代義雄を須影村へ派遣し種痘を実施したとある。屋代義雄は、南部藩藩医の家に生まれ、後、泉藩藩医屋代岱庵の養子となる。明治4年、藩命により、種痘実施のため須影村に派遣される。滞在中に廃藩となったことから蓮華寺跡地の一部を譲り受ける。結婚を機に羽生町に移り、順天堂で西洋医学を学んだ後、明治病院の院長、廃院後は羽生病院の院長となり、明治26年に死去した。	
1871	明治4	出井熊吉により、下羽生村に新渠(回し堀)が新設された。	
1871	明治4	7月14日 廃藩置県により須影地区の村には、下妻県・泉県・岩鼻県・大宮県が設置されたが、旧藩名をそのまま県名にしたものであった。 下妻県：上川崎村・中川崎村・下川崎村 泉県：須影村・加羽ヶ崎村・秀安村 岩鼻県：下羽生村 大宮県：砂山村	1871 廃藩置県
1871	明治4	9月30日 八幡宮を改築した潮元が没した。享年73歳。 潮元は蓮華寺十八世の住職で、嘉永4年住職となってから近村まで托鉢に出かけ、阿弥陀堂を修造し、安政2年2月、四国順拝に出発、9月寺に帰り、これより土砂加持を始め、また八幡宮再建の大事業を完成した。	
1871	明治4	宗門人別帳廃止となる。	



潮元座像（小林家蔵）

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1872	明治5	1月29日、明治2年に定めた身分の内、卒のうち世襲の者は士族に、他は平民とした。これにより、皇族・華族・士族・平民との4区分となった。	
1872	明治5	<p>慶應4年(1868)に発布された神仏分離令に伴う廃仏毀釈により、須影村の蓮華寺・東曜寺、加羽ヶ崎村の宝光院、秀安村の長泉寺が廃寺となった。</p> <p>これら廃寺となった寺院の本尊の行方を調べたところ、次の通りであった。</p> <p>【本尊等の寺物の行方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宝光院本尊不動明王像：不明 ・宝光院阿弥陀如来像： <ul style="list-style-type: none"> 加羽ヶ崎共同墓地内御堂(宝光院) ・長泉寺本尊不動明王像： <ul style="list-style-type: none"> 秀安共同墓地内御堂(薬師堂) ・蓮華寺阿弥陀堂阿弥陀如来像：不明 ・東曜寺地藏菩薩像： <ul style="list-style-type: none"> 大字須影の地藏堂内に安置 年1回地藏盆の日にご開帳 ・東曜寺観音堂千手観音像：大字須影地内某家 ・善性寺本尊薬師如来像：大字須影地内薬師堂 <p>『埼玉県北埼玉郡誌』に須影村観音堂について、「千手観音ニテ立像一尺運慶ノ作ナリ、蓮華寺三世ノ僧淳恵万治元年九月起立ス」と記している。</p>	<p>1872 徴兵令公布</p> <div data-bbox="1033 622 1361 1048" data-label="Image"> </div> <p>善性院薬師如来像</p>
1872	明治5	<p>7月15日 羽生町の今成新左衛門が柏崎港で殉職する。</p> <p>【今成新左衛門】</p> <p>今成新左衛門は、明治4年12月に埼玉県補丁(今の巡查)となった。その後、逃亡中の殺人犯の福田茂吉らが新潟県に潜伏していることが分かり、そこで犯人を逮捕、船で新潟港から柏崎港まで護送後、埼玉県から共に行った上司2人は浦和までの陸路護送の打合せに柏崎県庁に行った。新左衛門は、船頭と2人で犯人福田茂吉ら4人を監視、日差しの強い真夏の海の上、喉が渴いたという犯人らを哀れみ、船頭に西瓜を買ってくるように命じた。縄をはずした犯人らは、1人になった新左衛門に襲いかかり、惨殺してしまった。新左衛門は日本近代警察の初の殉職者となった。羽生の大聖院に葬られた。</p>	<p>1872 郵便制度施行</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1872	明治5	明治5年4月、従来の名主・庄屋・百姓代の名称は廃止となり、戸長・副戸長を置くことに改められた。	
1872	明治5	<p>12月1日 明治5年8月の学制の公布に基づき、現羽生市内において、最初の学校として、羽生学校が伊勢伝（神明社の社務所）を借用して開校した。</p> <p>明治7年6月6日には、叢沢村の正光寺に移転したが、同年9月20日に正光寺が焼失したため、8年6月6日、独立校舎として再出発している。</p> <p>通学区域は、羽生町・叢沢村・小須賀村・上川俣村・本川俣村・北袋村・藤井村・小松村・上羽生村・下羽生村であった。その後、明治9年には、本川俣村・藤井村下組・下羽生村の3箇所に分教場が設置された。</p> <p>羽生学校は、かつて、羽生領の若者達の学問所として開設されていた「会所」を発展解消して設置したもので、教員も、その会所の教員である早川光蔵をそのまま教員とした。生徒数も10ヶ村で、20名ほどであったという。</p> <p>当時は、子供も貴重な労働力であったことから、いくら説得しても通学者が増えなかった。その上、今のようには無料ではなく、毎月授業料を必要とした。こんなことから、多くの学校が放火されたと記録に残っている。</p>	
1873	明治6	明治5年11月9日に太政官布達第337号（通称：改暦ノ詔書並太陽暦頒布）が發布され、太陽暦が実施された。それにより、明治5年12月3日が太陽暦の明治6年1月1日となった。	1873 太陽暦施行
1873	明治6	<p>3月21日 富徳寺内に正名学校が設置された。通学区域は、須影村・秀安村・加羽ヶ崎村・上手子林村・神戸村で、秀安村に分教場が置かれた。</p> <p>【正名学校連合村落誌略】</p> <p>第四十九学区正名学校ハ武蔵国北埼玉郡上手子林ニ在リ明治六年三月神戸須影秀安加羽ヶ崎上手子林ノ五村ヲ連合シテ仮リニ校舎を富徳寺ニ設ケ次テ分校ヲ秀安村ニ建築ス</p> <p>明治18年11月21日の富徳寺の火災で正名学校は焼失した。</p>	

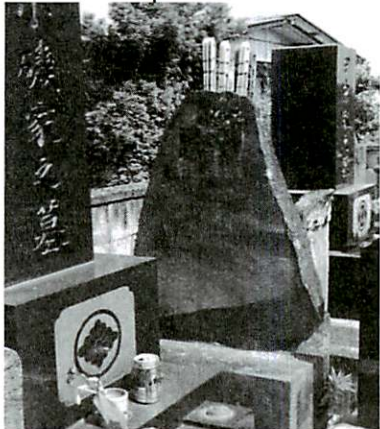

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1873	明治6	<p>3月24日、須影地区最初の小学校としての砂山学校が島山寺に設置された。</p> <p>当初、第1大学区第13番中学区第28番小学区であったが、翌年に71番小学区へ変更となった。設立時は前記を冠していたが、明治9年からはそのまま砂山学校となった。創立当時の職員は、後藤定一郎(元忍藩士200石)と牧虎太郎で、通学区域は、砂山村・上川崎村・中川崎村・下川崎村であった。その後、校名を「日正学校」と改めるとともに、下川崎村に移転した。</p> <p>【須影小学校の経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治6年3月 第一大学区第十三番中学区第二十八番小学区「砂山学校」として設立 ・明治7年 第七十一番小学区に変更 ・その後 「日正学校」と改称 (明治15年の『北埼玉郡治概要』に「砂山村日正学校」とある) ・その後 下川崎村新田(地藏山)に校舎新築移転 ・明治19年3月 須影村21番地に新築移転、「日盛学校」と改称 ・明治20年1月 1日午前9時、放火により焼失 ・明治25年4月 日盛尋常小学校と改称 ・明治41年1月 須影657番地1に新築移転 ・明治42年9月 1日 校舎(202坪)が完成 ・明治42年3月 1日 須影尋常小学校と改称 ・大正9年4月 須影尋常高等小学校と改称 ・昭和16年4月 須影国民学校と改称 ・昭和22年4月 須影小学校と改称 <p>この須影小学校も、明治20年「日盛学校」時代に、他の羽生学校(現・羽生北小学校)、正名学校(現存せず)と同様、放火されている。学校設置対する不満からと思える。</p> <p>なお、羽生学校、正名学校、砂山学校以外の学校としては、上新郷学校(6年5月・勝軍寺)、下新田学校(6年3月・栄新寺)、岩瀬学校(6年4月・岩松寺)、稲子学校(7年4月・源昌院)、今泉学校(6年8月・長光寺)、広聞学校(6年3月・清浄院)、三田ヶ谷学校(7年1月・蓮台寺)、上村学校(7年1月・総徳院)、村君学校(6年7月・永明寺)が開設されている。</p>	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1873	明治6	5月12日 陸奥泉藩の所領地であった須影村外7ヶ村は旧領主本多忠伸に、統治中における善政へのお礼として慰労金71円を贈った。	1873 地租改正
1874	明治7	4月8日 戸長役場が設置される。 【須影地区内の戸長役場（当初）】 ・須影村戸長役場（戸長小磯米吉） ・上羽生村・下羽生村組合戸長役場（戸長藤井儀助） ・秀安村・加羽ヶ村組合戸長役場（戸長小山松蔵） ・砂山村・上川崎村組合戸長役場（戸長磯田英助） ・下川崎村戸長役場（戸長今成荘一郎） 【その後の経緯】 ・砂山村・上川崎村組合戸長役場から上川崎村が分離し、砂山村は単独の砂山村戸長役場となる。 ・上川崎村は下川崎村と合して下川崎村・上川崎村組合戸長役場を結成する。 ・明治12年11月17日 下羽生村が上羽生村・下羽生村組合戸長役場から独立し、単独の下羽生村戸長役場（戸長小磯市之助）となった。	1874 佐賀の乱
1874	明治7	12月18日 戸長役場設置に伴い、中川崎村は下川崎村に合併となった。	
1875	明治8	8月 円福寺を建て替えした。住職渡辺理法。 円福寺は、明応8年(1499)に建立後、元禄11年(1698)にも建て替えられている。なお、現在の本堂は平成2年(1990)に再建されたものである。	
1876	明治9	1月1日 県地方課の調書によると、この年の須影地区の戸数・人口は次のとおりであった。 須影村 123戸 (645人) 下川崎村 105戸 (518人) 上川崎村 43戸 (222人) 砂山村 96戸 (467人) 加羽崎村 51戸 (266人) 秀安村 56戸 (294人) 下羽生村 62戸 (368人) 計 636戸 (2,780人)	1876 国道・県道 ・里道が定まる

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1876	明治9	<p>1月に砂山村戸長磯田英助から県令白根多助にあてた「第十二区埼玉郡砂山村誌」に次のような記載がある。</p> <p>【第十二区埼玉郡砂山村誌】</p> <p>本村の儀は、埼玉郡葛浜郷羽生領に属す</p> <p>牝馬 一四頭 漁船 一艘 荷車 一輛</p> <p>道路 村往還巾二間 中山道鴻巣宿より第一三区羽生町への往来及び不動岡道</p> <p>学校 公立小学校 砂山学校と称す 明治六年三月二四日設置 島山寺本堂仮用 生徒男九四人 女一〇名</p> <p>事務所 村方月田加門宅借受 東西五間・南北二間半</p> <p>物産 米 二二三石五斗三升 大麦 六三八石六斗五升 小麦 七九石八斗三升 青縞 一二四五反 白木綿 八三反 縞木綿 六六四反</p> <p>民業 男女農を専務とす</p>	
1876	明治9	<p>下羽生巖島神社が再建される。</p> <p>『埼玉の神社』によると、午の年の利根川の洪水により金箔の幣束が流れてきたので祠を建てて祀ったのが、この神社の始まりであるとある。</p> <p>当初は弁天社と呼ばれ弁財天十六童子像を祀っていたが、神仏分離以降は市杵島姫命が祭神となった。</p> <p>今も安置されている弁財天十六童子像の厨子には次のような開帳記録が記載されている。</p> <p>(厨子裏面)</p> <p>寅三月十五日ヨリ同四月十五日迄升女竹生嶋開帳西国三十三所観口</p> <p>(扉裏面)</p> <p>摂州四天王寺聖徳太子庚申長壽寺以開帳有之寅三月</p>	<div data-bbox="936 1066 1325 1563" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="971 1585 1302 1621">巖島神社弁財天十六童子像</p> <div data-bbox="902 1684 1361 2007" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1053 2020 1248 2056">現在の巖島神社</p>


西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1876	明治9	下羽生村に羽生学校下羽生分教場が設置される。 明治16年に新築された。	
1878	明治11	<p>小学校教員養成を目的とした第13番中学区「不動岡講習学校」（現不動岡高等学校）が不動岡町に開校した。この学校も、明治13年3月廃校、同年4月私立中学校として開校、途中公立となるも明治19年に再び閉校、同年11月に私立として開校と多難な幕開けであった。</p> <p>【不動岡高等学校の経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治11年3月 不動岡講習学校を開校 ・明治13年3月 同校閉校 ・明治13年4月 私立會川中学校を開校 ・明治14年4月 北埼玉郡立不動岡中学校と改称 ・明治17年7月 郡立不動岡・羽生中学校と改称 (羽生中学校を合併) ・明治18年3月 北埼玉郡立中学校と改称 (成田中学校を合併) ・明治19年4月 中学校令公布により 「郡立中学校」閉校となる ・明治19年11月 私立埼玉英和学校を開校 ・明治27年7月 私立埼玉和英学校と改称 ・明治30年4月 私立埼玉尋常中学校と改称 ・明治32年4月 私立埼玉中学校と改称 ・大正10年4月 県立移管し、埼玉県立不動岡中学校と改称 ・昭和23年4月 学制改革により、埼玉県立不動岡高等学校と改称 ・昭和23年8月 菖蒲・羽生・北川辺に分校設置 ・昭和30年4月 騎西分校を設置 ・昭和37年4月 菖蒲分校独立 (組合立菖蒲高校開校) ・昭和42年4月 羽生分校独立 (組合立羽生高校開校) ・昭和49年4月 北川辺分校独立 (県立北川辺高校開校) ・昭和62年3月 騎西分校閉校 	1878 参謀本部設置
1878	明治11	7月22日 郡区町村編成法が公布され、郡役所が設置された。但し、施行は各府県に任された。	


西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1879	明治12	3月 郡区町村編成法を埼玉県内に実施、18の郡に郡役所9カ所が発足した。埼玉郡のうちの5町188村が北埼玉郡となり、郡役所が行田町に置かれた。その折、同名の村は改名させられた。現羽生市内では、荻島村が北荻島村とされた。また、町村に戸長・副戸長、その下に百姓代、伍長を置くとされた。独立しがたい町村は聯合して戸長役場を設けるとした。	1879 県下の地租改正完了
1881	明治14	羽生中学校が開校する。 明治13年7月に県が公立中学校設立の論達を発した。それにより、明治13年に入間高麗中学校・秩父中学校が、14年に羽生中学校・不動岡中学校・成田中学校・熊谷中学校が、15年に北足立新座中学校・児玉中学校が開校した。17年には羽生中学校が不動岡中学校に合併、さらに18年3月には成田中学校も同校に合併され、校名も北埼玉郡立中学校となった。児玉中学校も18年に閉校となり、郡立中学校は7校となった。 明治12年に郡長と郡役所が設置されたが、自治体となったのは明治29年であったことから、郡立中学校といえども、郡長のもとでの町村立中学校であった。	
1882	明治15	8月 北埼玉郡第四十九学区正名学校の教科書として作成された『正名連合村落誌略』に、第四十九学区連合村の税地、年貢税、本籍戸数、人口が掲載されている。 ・上手子林村 税地 149町7反5畝14歩、年貢税 1490円25銭5厘、 本籍戸数 151戸、人口 852人 ・神戸村 税地 121町1反1畝27歩、年貢税 1146円20銭、 本籍戸数 117戸、人口 698人 ・須影村 税地 131町5反9畝16歩、年貢税 1107円45銭6厘、 本籍戸数 121戸、人口 707人 ・加羽ヶ崎村 税地 57町2畝20歩、年貢税 635円76銭、 本籍戸数 52戸、人口 313人 ・秀安村 税地 58町1反14歩、年貢税 617円71銭8厘、 本籍戸数 53戸、人口 314人	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1883	明治16	<p>3月25日 下羽生の小磯旭岳が没した。享年76歳。</p> <p>【小磯旭岳】</p> <p>小磯旭岳は、名は桂助といい、文化5年1月15日に生まれ、長じて森玉岡の門に入り、書・詩を学ぶ。玉岡没後は村君の尾上朝運について画法を学んだ。子の則武に家政を委せてからは塾生を教え、弟子は90余人に及んだという。</p>	 <p>小磯旭岳墓碑</p>
1884	明治17	7月 羽生中学校が不動岡中学校に合併する。	
1884	明治17	7月 須影村・下川崎村・上川崎村・砂山村・加羽ヶ崎村・秀安村が連合して須影村連合戸長役場を結成する。下羽生村は羽生町連合戸長役場に属した。	
1885	明治18	<p>4月に出された『埼玉県最上農名簿』に記載されている現羽生市内の農家（上位11名）は次のとおりであった。</p> <p>【現羽生市内の最上農家】（明治18年）</p> <p>①堀越庭七郎（本川俣村） 51町5反</p> <p>②田口与左衛門（下村君村） 22町</p> <p>③清水右六（羽生町） 17町9反</p> <p>④斎藤幾三郎（喜右衛門新田） 17町1反</p> <p>⑤根岸佐次郎（今泉村） 16町3反</p> <p>⑥入江治兵衛（上羽生村） 15町7反</p> <p>⑦出井熊吉（下羽生村） 15町3反</p> <p>⑧小沢七右衛門（弥勒村） 15町</p> <p>⑨岡田孝八郎（喜右衛門新田） 14町6反</p> <p>⑩高田権七郎（今泉村） 13町5反</p> <p>⑪堀越寛介（本川俣村） 12町5反</p>	<p>1885 大宮・宇都宮間鉄道開通</p> <p>1886 師範学校令・小学校令・中学校令公布</p>
1886	明治19	3月、下川崎村にあった「日正学校」を須影村21番地に新築移転し校名を「日盛学校」と改称した。明治19年1月に放火により焼失したので、再び新築した。	
1887	明治20	須影八幡宮境内に、蓮華寺18世住職・潮元の寺子屋の「潮元師碑」が筆子らにより建立される。	 <p>潮元師碑</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1887	明治20	<p>羽生町を中心とした町村による組合立の羽生高等小学校が羽生尋常小学校内に新設された。</p> <p>高等小学校は、明治19年の小学校令により制度化された学校であった。</p> <p>大正9年には、組合立羽生高等小学校が廃され、羽生・新郷・須影・川俣・井泉の各尋常小学校にそれぞれ高等科が設置された。</p>	
1888	明治21	<p>8月 富士講の組織集団としての扶桑教丸加講の総長諸井勇行要人が没する。</p> <p>【諸井勇行要人】</p> <p>諸井要人は、本名を政明といい、天保4年(1833)に加羽ヶ崎村に生まれる。父の3世勇行道善に入門後、国家安寧を願い、富士登拝を重ねた結果、食行身禄の末流としての「行」名を受け、4世勇行となった。</p> <p>明治になり、官幣社となった富士浅間神社の初代宮司宍野半(ししのなかば)が仙元大菩薩の神威を感じ、明治6年に各地の富士講を結集した日本を意味する「扶桑教」が設立した。丸加講もそれに包含され、扶桑教丸加講となり、要人は丸加講総長となった。その後、扶桑教本部より、最高位の大講義に任ぜられたが、明治21年8月25日、病いにより逝去した。享年66歳であった。</p> <p>富士山信仰を講集団まで高めたのが長谷川角行で、その講集団を組織化したのが食行身禄であった。食行身禄の教えは「自らの生業を励むことによって幸福が得られる。神仏に祈るには木像も社もない、天に向かって手を合わせればよい」であった。加羽ヶ崎村の諸井勇吉元房は、食行の孫弟子の吉田仙行伸月の弟子となり、角行・食行直系のみに許される行名を受け、「勇行」となり丸加講を開いた。諸井要人は、その勇行元房から4世にあたる。</p>	1888 市制・町村制公布
1889	明治22	<p>4月1日 須影村・下川崎村・上川崎村・砂山村・加羽ヶ崎村・秀安村・下羽生村の7村を合して、須影村となった。(村長大貫勘十郎・助役田島柳太郎・収入役荻野利助)</p>	<p>1889 大日本国憲法公布</p> <p>1889 衆議院議員選挙法公布</p>

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1890	明治23	1月、館林道（日光脇往還）の利根川に、従来の渡し船に代わり有料の船橋「上新郷船橋」が開通となる。 船橋とは、多くの船を並び繋ぎ、その上に板を渡して橋としたもので、浮き橋とも言われている。	1890 府県制・郡制公布
1890	明治23	8月23日 須加村下中条地先利根川59間が決潰、北埼玉・南埼玉・北葛飾・北足立の各郡に氾濫した。	
1892	明治25	11月1日 大字須影に成田警察署羽生分署須影駐在所ができた。 【羽生警察署経緯】 ・明治5年4月 補亡附属羽生屯所が設置 ・明治7年2月 行田支所警察附属屯所と改称 ・明治8年 羽生町巡查屯所と改称 ・明治9年1月 埼玉県巡查第14屯所と改称 ・明治9年10月 第14羽生屯所と改称 ・明治10年2月 成田警察署羽生分署と改称 ・大正15年7月 羽生警察署と改称	
1892	明治25	明治25年の年交通量は次の通りであった。（『羽生市史』） ○加須川俣道（岡古井～上手子林～秀安～下羽生～羽生） 駄馬 2,160頭 荷車 12,600輛 人力車 11,520輛 旅人 7,200人 ○鴻巣羽生道（真名板～砂山～小松～羽生） 駄馬 2,160頭 荷車 3,240輛 人力車 4,320輛 旅人 5,400人	
1892	明治25	日盛学校を日盛尋常小学校と改名する。	
1893	明治26	2月5日 須影村で種痘実施した屋代義雄が死去した。 享年46歳であった。 【屋代義雄】 屋代義雄は明治4年4月に陸奥泉藩から藩命により、種痘実施のため須影村に派遣された医師で、泉県（明治4年7月に泉藩から泉県となる）が廃止されると、須影村に土着、明治6年3月に羽生町の加山やのとの結婚により羽生町へ移転、明治9年9月に公立明治病院院長となり、廃院後、私立羽生病院を設立したが、屋代義雄の死去に伴い廃院となった。	


西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1894	明治27	日清戦争開戦され、多数の応召兵と軍馬の徴発があった。	1894 日清戦争
1895	明治28	明治4年に、出井熊吉は、岩瀬落の下羽生村への溢水対策としての北袋村への新渠を私財を投じて施工した。 下羽生村の出井熊吉宅横の岩瀬落沿いに、その労を記した「新渠碑」が北袋村の住民により、建立された。	
1896	明治29	『埼玉縣北埼玉郡史』に、明治29年時点での須影村の人口（本籍人口）として、493戸、3,376人（男1,686人女1,690人）と記されている。	1896 郡制実施
1897	明治30	8月26日 小磯米山が没した。享年76歳。 米山は文政5年2月19日、須影に生まれ、農業に精励するかたわら書・画をたしなみ、明治5年2月には、孝養をつくし家業ととのえ、社会に奉仕した故をもって、埼玉県庁から表彰された。また明治7年から12年まで戸長をつとめた。林有章撰并書の「小磯米山君寿蔵碑」が生家の前に建てられている。	1897 府県制実施
1897	明治30	6月 「根岸簡恵を称える碑」が建立された。 根岸簡恵(通称茂平)は、当時、区長は名主等の顔役が就任していたが、茂平は一般人から秀安の区長となった。	
			小磯米山君寿蔵碑
1899	明治32	9月30日 下羽生の出井兵吉が北埼玉郡会議員となる。 選挙区は、不動岡・中島・手子林・須影の各村で定員は2人であった。36年9月29日に退職した。	
1901	明治34	8月30日 須影1670番地の民有地を借用していた須影村役場を須影字上川田648番地に新築移転した。 (木造平屋建)	
1903	明治36	1月 扶桑教丸加講総長諸井要人の碑が建立される。	
1903	明治36	4月23日 東武鉄道が久喜以北本川俣まで開通し、羽生駅が開駅した。当初は、足利まで鉄道を引く予定であったが、経費の点から利根川南端までの開通であった。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1903	明治36	9月13日には須影駅が開駅した。	
1904	明治37	2月6日 ロシアに宣戦布告、多数の応召兵と軍馬の徴発があった。	1904 日露戦争
1905	明治38	9月 下羽生村巖島神社境内に、下羽生村発展のために私財を投じて貢献した出井熊吉の顕彰碑「出井翁壽頌碑」が建立された。	
1906	明治39	8月 「神社寺院仏堂跡地譲与に関する勅令」が發布された。この勅令は、合祀等によって不用になった土地は合祀した神社等に譲与されるというもので、これにより、村指導者はこぞって合祀していった。 手子林村のように、村内の神社を合祀した神社として、新に豊武神社を建立したところもあるが、一般的には、村社となった神社に村内の神社が合祀された。	
1907	明治40	2月24日 下羽生耕地整理が着手する。	
1907	明治40	7月7日 下羽生の出井熊吉が死去。享年76歳。 【出井熊吉】 出井熊吉は、天保2年(1831)8月15日に下羽生村の農家・出井治良兵衛の長男として出生。明治8年に家督を継いだ時は、約4町の所有地であったが、最盛期には約60町を所有する大資産家となっている。熊吉の功績は偉大なものであり、明治4年に私財を投じ、下羽生の耕地治水改良のための新渠を新設するとともに、下羽生の通行利便を図るため、これも私財を投じ、葛西用水路に3橋を架橋している。また、明治38年には、下羽生に耕地整理を導入し着工している。熊吉は、その折にも、私財1,000円を提供している。	
1908	明治41	1月14日 日盛尋常小学校を21番地から、現位置657番地に移転した。	
1908	明治41	8月15日 須影駅が乗降客少量ゆえ閉駅となる。	
1909	明治42	3月1日 日盛学校を須影尋常小学校と改称した。	

出井翁壽頌碑

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1910	明治43	8月 中条村で利根川堤376間が決潰、埼玉県東半部の沃野を浸し、遠く東京に及んだ。被害状況は、流出家屋が1戸(川俣村)、浸水家屋としては、羽生町230戸・川俣村13戸・新郷村460戸・岩瀬村100戸・須影村309戸・中島村17戸・手子林村57戸・三田ヶ谷村323戸・村君村50戸・井泉村80戸の合わせて1,639戸であった。	1910 韓国併合
1914	大正3	1月14日 下羽生組合耕地整理事業が完了となった。 【下羽生組合耕地整理】 ・理事長 出井熊吉→蓮見八五郎 ・工事着手 明治40年2月24日 ・面積 36町7反5歩41合 (田 27町3畝21歩 292筆 畑 7町5畝13歩 139筆 宅地 26,101.41坪 18筆 ・工事完了 大正3年1月14日 ・組合解散 大正7年9月27日	1914 第一次世界大戦
1919	大正8	1月23日 須影信用販売購買利用組合が創立された。初代組合長出井兵吉、専務理事大貫佐之助、事務所(借用)を大字須影1513番地小林利治方に置いた。大正12年3月5日、須影村大字須影1543番地に移転。	
1919	大正8	8月25日、羽生町外5ヶ村(川俣村・新郷村・岩瀬村・須影村・井泉村)学校組合立農業学校が羽生町大字上羽生1543番地に設立された。 【羽生実業高校の経緯】 ・大正8年9月 羽生農業学校として開校 ・大正12年4月 商業科併置 北埼玉実業学校と改称 ・昭和15年2月 組合を羽生町外9ヶ村に拡張 (羽生・川俣・新郷・岩瀬・須影・井泉・手子林・中島・三田ヶ谷・村君の町村) ・昭和15年4月 埼玉県羽生実業学校と改称 ・昭和23年4月 学制改革により、埼玉県羽生実業高等学校と改称 ・昭和23年9月 羽生町羽生232番地に移転 ・同24年2月 県立移管となり、埼玉県立羽生実業高等学校と改称	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1920	大正 9	<p>須影尋常小学校に高等科を併置し、校名を須影尋常高等小学校と改称した。(細井栄蔵校長)</p> <p>明治20年に羽生町を中心とした町村により設置された組合立羽生高等小学校が廃され、羽生・新郷・須影・川俣・井泉の各尋常小学校に高等科が新設された。</p> <p>【須影中学校の経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正9年4月 須影尋常高等小学校高等科設置 ・昭和16年4月 須影国民学校高等科と改称 ・昭和22年4月 須影中学校と改称 ・昭和27年7月 現須影運動公園の地に新築移転 ・昭和36年3月 体育館完成 ・昭和39年8月 水泳プール完成 ・昭和55年3月 須影中学校が閉校となる ・昭和55年4月 南中学校へ統合 	
1920	大正 9	鴻巣・羽生間道路(いわゆる小松県道)が県道となる。	1920 道路法制定
1920	大正 9	10月7日 出井兵吉が埼玉県議会議長となる。 大正15年(1926)2月25日まで議長就任。	
1921	大正 10	この頃の須影村役場職員は次の通りであった。 村長：出井兵吉、助役：小磯米太郎、収入役：荻野唯八 出井兵吉は、大貫勘十郎、田島柳三郎、今成清三郎に継ぐ4代目の須影村村長で、明治42年7月8日から大正4年11月17日まで、そして昭和18年2月28日から昭和21年1月30日まで、併せて19年3ヶ月間に渡り須影村村長に在籍していた。	
1921	大正 10	『埼玉縣北埼玉郡史』に、大正10年時点での須影村の人口(本籍人口)として、542戸、4,248人(男2,136人女2,112人)と記されている。	1922 郡制廃止
1923	大正 12	9月1日 関東大震災、家屋倒壊等の損害がすくなくなかった。	1923 関東大震災
昭和初期		この頃、金子式畜力原動機が使われ始める。 大正12年から昭和10年頃にかけて金子農機で製作された農機具であり、一世を風靡した。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1927	昭和2	<p>4月1日 東武鉄道が電化、複線となり、一時廃されていた須影駅が19年ぶりに再び開駅された。</p> <p>【東武鉄道伊勢崎線の電化】</p> <p>東武鉄道は、大正11年に電化を決定、第1期工事として、大正13年10月1日に浅草（現東京スカイツリー）ー西新井間を電化したのが最初であった。その後、西新井ー越谷間、越谷ー久喜間、久喜ー館林間と工事が進められた。久喜ー館林間は単線であったことから複線化工事と同時に行われた。その後も電化工事が進められ、伊勢崎線全線の電化が完了したのは昭和2年10月1日であった。</p>	
1928	昭和3	<p>2月20日 出井兵吉が第16回総選挙で当選、衆議院議員となる。昭和21年1月30日まで勤める。</p>	
1928	昭和3	<p>5月20日 須影村役場を大字須影1546番地に新築移転した。木造3階建、建築費は、7,577円14銭であった。</p>	 <p>旧須影村役場 (昭和58年 秋谷庫治氏)</p>
1929	昭和4	<p>10月 初代昭和橋が完成する。橋長574.5m、幅員4.5mの木橋で、昭和3年7月起工し、翌4年10月1日に竣工式が行われた。</p> <p>【昭和橋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和4年10月 初代昭和橋開通 木橋 ・昭和10年9月 利根川大出水により橋脚流出 ・昭和18年頃 復旧完了 ・昭和22年 カスリーン台風により橋中央部流出 ・昭和24年 復旧完了 ・昭和37年5月 2代目昭和橋完成 ランガー橋 橋長 658,3m 幅員7.0m ・平成18年3月 3代目昭和橋1期線完成 連続鋼板桁橋 橋長 658m 幅員 12m ・平成26年12月20日 2期線（下り線）完成 橋長 658.6m 幅員 11.75m(内歩道 3.5m) 	
1935	昭和10	<p>下羽生の巖島神社が再建される。</p>	

1936 二二六事件

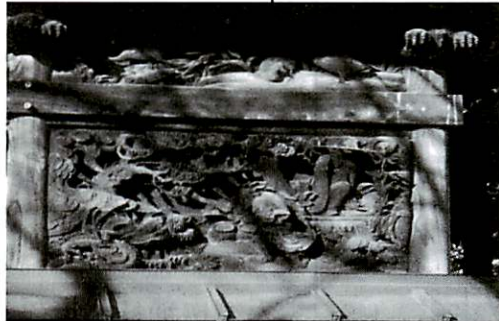
西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1937	昭和12	7月8日 日華事変が勃発し昭和20年の太平洋戦争の終結までに、須影村においても多くの戦死者が出た。	
1938	昭和13	出井兵吉、知事に推されて社長となり第5期「埼玉新聞」を発刊する。現在の埼玉新聞社に「埼玉新聞」の名義を譲渡した昭和19年10月まで社長を勤める。 【「埼玉新聞」発行経緯】 ・明治6年1月 第1期埼玉新聞(文進社)を発刊 ・明治6年11月 同紙第15号にて廃刊 ・明治9年10月 第2期埼玉新聞(僉載社)を発刊 ・明治16年3月 第3期埼玉新聞が発刊 ・明治16年5月 同紙第16号で廃刊 ・大正4年4月 埼玉日日新聞が埼玉新報を吸収し、第4期埼玉新聞を発刊 ・昭和6年 同紙終刊 ・昭和13年 第5期埼玉新聞を発刊 ・昭和15年 同社、「埼玉日報」を吸収 ・昭和19年10月16日 社団法人埼玉新聞社発足に伴い「埼玉新聞」の発行権利を当該法人に譲渡 ・昭和30年 株式会社埼玉新聞社と改称	
1938	昭和13	3月、昭和7年に起工した会の川改修工事が完了する。 上川崎の志多見堰横に完成記念碑が建立された。撰文は國學院大学長の河野省三文学博士であった。	
1941	昭和16	4月1日 国民学校令の公布に伴い、須影尋常高等小学校は須影国民学校と改称された。	
太平洋戦争中		日本軍の戦闘機が下羽生境の秀安上郷の地に墜落する。パイロットは、墜落寸前にパラシュートで脱出、須影境の秀安下郷の地に降り、ふらつきながら歩き、下郷の某家の敷地内で倒れた。某家の介抱で助かる。	
1945	昭和20	8月15日 ポツダム宣言受諾、日本は無条件降服し、第2次世界大戦が終結した。	1945 ポツダム宣言受諾




会ノ川改修記念碑

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1947	昭和22	4月1日 六三制が施行され、須影国民学校は須影小学校と改称（12学級 柴崎治郎校長）された。 また、高等科が須影国民学校から分離独立し、新製の須影中学校が創立した。（5学級 初代岡戸繁治校長）	1946 日本国憲法公布
1948	昭和23	10月5日 埼玉県教育委員第1回の選挙が行われ、出井治人氏らが当選した。	
1948	昭和23	7月 競馬法の制定により、須影駐在所の南側にあった須影競馬場が廃止となった。	
1948	昭和23	県立不動岡高校羽生分校（定時制）が羽生小学校校舎の一部を使用して開校した。 【羽生高校の経緯】 ・昭和23年 県立不動岡高校羽生分校が開校 ・昭和41年 大字加羽ヶ崎に校舎が完成 ・昭和42年 組合立羽生高校と改称 ・同46年3月 県立羽生高校と改称（県立移管）	
1949	昭和24	3月 須影小学校校歌（宮沢章二作詞・下総皖一作曲）を制定する。	1949 松川事件 1950 朝鮮戦争
1952	昭和27	4月30日 戦傷病者・戦没者遺族等援護法が公布。これにより、各地で慰霊塔が建設された。須影地区においても、40年9月に浄林寺境内に建設された。	
1952	昭和27	7月17日 須影中学校新校舎が大字須影713番地に落成し、新築移転した。	
1954	昭和29	9月1日 羽生町・須影村・手子林村・井泉村・川俣村・新郷村・岩瀬村の1町6カ村を合わせて羽生市（県内16番目）となった。 ・人口 36,564人 ・世帯 6,604世帯 ・面積 44.59km ²	
1954	昭和29	10月10日 羽生市長選挙が行われ、初代市長に出井兵吉が当選した。（助役杉田専一、収入役立石計司）	
1955	昭和30	11月 志多見溜井と金兵衛堀が加須市史跡となる。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1956	昭和31	9月27日 岡田十松建立墓碑が市史跡に指定された。	
1957	昭和32	4月 羽生市内において利根川の引堤工事が着手する。 この引堤工事は、利根川の五大引堤の一つである羽生・千代田引堤工事で、利根川の右岸142.5km（河口からの距離）から151.3kmの間の延長7.750mの堤防を120m引堤したもので、工事は昭和32年度に着工し、昭和40年度に完了した。 他の4引堤工事とは、行田引堤工事（右岸）、利島・川辺村引堤工事（左岸）、新郷村引堤工事（左岸）、五霞村引堤工事（右岸）である。	
1958	昭和33	7月16日 出井兵吉、市長を退職する。 【歴代羽生市長】 ・昭和29年10月～ 出井兵吉 ・昭和33年8月～ 杉田専一 ・昭和41年7月～ 須藤忠司 ・昭和57年8月～ 三木兼吉 ・平成6年7月～ 今成守雄 ・平成18年6月～ 河田晃明	
1958	昭和33	12月 出井兵吉翁が名誉市民第1号に推挙された。 【羽生市名誉市民】 ・昭和33年10月1日 出井兵吉 ・昭和45年12月1日 杉田専一（第2代目市長） ・昭和45年12月1日 中田八十右衛門（油中田社長） ・昭和45年12月1日 金子専一（金子農機社長） ・昭和55年12月13日 ルイスLラルジバザル （姉妹都市フィリピン国バギオ市長） ・平成元年9月25日 小沢 丘（剣道範士） ・平成元年9月25日 三村秀竹（書道家） ・平成元年9月25日 須藤忠司（第3代目市長）	
1959	昭和34	4月 砂山簡易水道が完成。	
1959	昭和34	4月 須影簡易水道が完成。33年9月起工。	
1959	昭和34	4月 須影小学校の第一期工事が完了する。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1960	昭和35	8月 名誉市民出井兵吉翁市葬が挙行される。 【出井兵吉の主な職】 ・須影村長 明治42. 7. 8 ~ 大正14. 11. 17 昭和18. 2. 28 ~ 昭和21. 1. 30 ・県議会議員 明治44. 9. 22 ~ 昭和3. 1. 24 ・県議会議長 大正9. 10. 7 ~ 大正10. 11. 7 大正13. 2. 15 ~ 大正15. 2. 25 ・衆議院議員 昭和3. 2. 20 ~ 昭和21. 1. 30 ・羽生市長 昭和29. 10. 10 ~ 昭和33. 7. 16	1960 ベトナム戦争
1961	昭和36	須影中学校の運動場（現・須影運動場）が完成する。	
1963	昭和38	4月 岩瀬小学校及び須影小学校に屋内運動場が完成。	
1963	昭和38	4月 館林街道が二級国道122号日光東京線に昇格する。昭和40年に一般国道122号となる。	
1966	昭和41	3月 須影中学校が西側へ校地を拡張し集会所を建設。	
1966	昭和41	4月 不動岡高校羽生分校の校舎が完成。 翌42年に組合立羽生高校となる。	
1968	昭和43	3月 須影小学校の校舎増改築工事が完成、岩石園完成。	
1968	昭和43	9月1日 東武鉄道須影駅が南羽生駅と改名。	
1969	昭和44	3月20日 須影八幡社彫刻が、市有形文化財に指定された。上州花輪の彫物工石原恒蔵主利及び下岩瀬の彫物工入江文治郎茂弘の作で、西壁面に「七福神」、北壁面に「神功皇后縁起三韓征伐」、東壁面に「大蛇退治」「地形つき」が描かれている。	 <p>須影八幡宮彫刻</p>
1969	昭和44	3月 秀安の長泉寺薬師堂（現秀安共同墓地本堂）を改築する。	
1969	昭和44	2月 フィリピン共和国のバギオ市と羽生市が姉妹都市となる。なお、平成6年には、ベルギー王国デュルビル市とも姉妹締結をしている。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1969	昭和44	4月 砂山集会所が完成。	
1969	昭和44	11月 東北自動車道の起工式が行われる。	
1970	昭和45	4月1日 県立不動岡女子高校が、県立不動岡高校の敷地内に開校する。 【誠和福祉高校経緯】 <ul style="list-style-type: none"> ・昭和45年4月 不動岡女子高校として不動岡高校敷地内の仮校舎で開校 ・昭和46年4月 羽生市神戸706番地に移転 ・平成3年4月 不動岡誠和高校と改称 ・平成20年4月 県立騎西高校と合併し、県立誠和福祉高校と改称 	
1970	昭和45	7月 須影小学校にプールが完成。	
1971	昭和46	3月30日 組合立羽生高等学校が県立高校に昇格。	
1972	昭和47	4月 新郷を除く各農協が合併し、羽生市農協が誕生したことに伴い、須影農業協同組合は解散となった。 (羽生市農業協同組合初代組合長 出井治人)	
1973	昭和48	加羽ヶ崎秀安土地改良事業が完成する。 【加羽ヶ崎秀安土地改良事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・地積 121町1反5畝 ・工事費 15,083,000円 ・工期 昭和37年12月～39年3月 ・換地登記 昭和46年11月 ・碑建立 昭和46年11月 	
1973	昭和48	秀安御嶽神社が再建される。	
1973	昭和48	12月21日 国道122号羽生バイパスが全面開通となる。	
1975	昭和50	眞光寺境内に下羽生水準点が、須影小学校校内に須影水準点が設置された。平成22年時点での標高は、下羽生水準点が13.97m、須影水準点が15.56mであった。	


須影一級水準点

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1976	昭和51	4月 県立羽生第一高校開校。	
1976	昭和51	10月1日 羽生市連合区長会を設立 区長相互の連絡と親睦を図るとともに、市の行政に協力し、住民の福祉の増進及び市の発展を期することを目的として、昭和51年10月1日に、新郷・川俣・岩瀬・須影・井泉・手子林・三田ヶ谷・村君の8地区区長会が連合し、羽生市連合区長会を設立した。	
1978	昭和53	4月 葛西用水路堤に遊歩道が完成。	
1980	昭和55	2月 羽生市役所前庭に出井兵吉像が建立する。	
1980	昭和55	3月31日 羽生市内の各中学校を西・南・東の3中学校に編成替えとなる。それに伴い、須影中学校は閉校となる。須影中学校の跡地は一部区域を除き、須影運動公園として存続となる。	
1980	昭和55	3月 秀安加羽ヶ崎農業研修所(秀安第一集会所)が完成。	
1981	昭和56	2月 須影公民館が完成。	
1982	昭和57	7月 羽生市は福島県金山町と友好都市を締結した。	
1984	昭和59	1月 須影公民館、震災満60年に当たって、「関東大震災の思い出文集」を発行。	
1983	昭和58	加羽ヶ崎共同墓地(旧宝光院)の墓地本堂の建設並びに霊園整備を行う。	
1984	昭和59	羽生市産業文化ホールが下羽生の地に開館する。	
1985	昭和60	2月 須影小学校鉄筋3階建校舎落成。プール・体育館竣工	
1985	昭和60	12月17日午前11時 桶川市の飛行場から飛び立った飛行訓練中のセスナ機が砂山の水田に墜落した。機体は大破し、機長と操縦訓練生の2名は即死だった。火災は起こらなかった。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1986	昭和61	3月 南羽生土地区画整理事業が着手。 昭和54年12月21日に都市計画決定、昭和61年3月7日に事業認可され、平成16年7月23日の換地処分により完成となった。	
1986	昭和61	8月 市立図書館及び市立郷土資料館が下羽生の地に開館する。	
1986	昭和61	須影小学校校庭整備完成。	
1986	昭和61	6月16日 須影八幡宮の大松が松喰虫のため枯死、切り倒される。切り株は、羽生市立郷土資料館並びに須影八幡宮に保存された。年輪から見て樹齢310年を数える。江戸第5代将軍徳川綱吉の頃に植樹されたものと思える。	
1987	昭和62	3月21日 須影地区歴代区長睦会が設立される。 会員相互の親睦と融和を図り、あわせて明るい豊かな郷土の発展に寄与することを目的に、昭和62年3月21日に、須影地区における区長職経験者及び須影地区現職区長をもって「須影地区歴代区長睦会」が組織された。 会長は現職区長会長が勤めることとなった。	
1987	昭和62	10月 第1回市民体育祭が開催される。	
1990	平成2	11月 羽生小松台工業団地が分譲開始。	1990 湾岸戦争
1991	平成3	10月 羽生小松台工業団地進出企業33社の一部が工場建設に着手。	
1992	平成4	2月 羽生小松台工業団地造成事業完了。	
1992	平成4	3月21日 南部幹線道路完成。	
1993	平成5	2月 ワークヒルズ羽生が下羽生地内に開館となる。	
1994	平成6	11月 羽生市はベルギー王国デュルビル市と姉妹都市となる。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
1996	平成8	4月 北埼玉郡市内の10農協（行田市・南河原村・川里村・羽生市・新郷・加須市・埼玉志多見・騎西町・北川辺町・大利根町）が合併し、ほくさい農業協同組合としてスタートした。	2003 イラク戦争
1996	平成8	4月 国道125号加須羽生バイパス開通。	
1999	平成11	3月 須影共同墓地（旧須影蓮華寺墓所）が改修整備された。	
2003	平成15	4月 「羽生市洪水避難地区（洪水ハザードマップ）」を作成し、地区別避難場所を指定した。須影地区としては、須影小学校・須影公民館・JA須影支店・ワークヒルズ羽生等が指定された。	
2004	平成16	市立図書館構内に市制50年を記念して『田舎教師』文学碑を建立。	
2007	平成19	1月 羽生市福祉バス「あい・あいバス」が運行される。	
2007	平成19	4月1日 県立養護学校羽生ふじ高等学園が羽生市下羽生320番地1に開校した。	
2007	平成19	8月 「道の駅はにゅう」が国道122号沿線の利根川スーパー堤防上にオープンした。	
2007	平成19	11月 羽生下川崎産業団地にイオンモール羽生がオープンする。当団地は、物流センター等を誘導する「うるおい産業地区」と「にぎわい商業地区」とに区分し、それぞれに合った企業の導入を図った。	
2008	平成20	4月 各公民館に「地域活動センター」が併設される。	
2008	平成20	4月1日 県立不動岡誠和高校と県立騎西高校が合併し、県立誠和福祉高校となった。校舎は、羽生市神戸の旧不動岡誠和高校に統合される。	
2009	平成21	11月 須影公民館において「地域防災訓練」が初めて実施される。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
2010	平成22	3月 平成19年11月に公表された埼玉県地震被害想定調査報告書に基づき、発生確率が高いと考えられている茨城県南部地震と、どこでも起こりうる直下地震を想定した「羽生市地震ハザードマップ」が作成され、各地の想定震度とともに、避難場所を指定された。 須影地区としては、須影小学校・須影地域活動センター・ワークヒルズ羽生・羽生高校・羽生ふじ高等学園が指定された。	
2010	平成22	4月 「羽生市まちづくり自治基本条例」が施行となる。	
2010	平成22	9月25日 郷土資料館主催「第6回ふるさと講座・川崎と砂山の文化財を訪ねる」が開催され、須影公民館を集合解散場所として、須影地区南部地域（下川崎・上川崎・砂山）の歴史的資産を探訪する。	
2010	平成22	南羽生駅平成22年度乗降客 1日平均3,802名。	
2011	平成23	3月 平成15年に利根川からの洪水を想定し作成された「羽生市洪水避難地図」に、新たに荒川からの浸水予想を加えた「羽生市洪水ハザードマップ」を作成し、各地区の浸水深を想定するとともに、指定避難所を公表した。須影地区としては、須影小学校・須影地域活動センター・ワークヒルズ羽生・羽生高校・羽生ふじ高等学園が指定された。	
2011	平成23	3月11日 東日本大震災いわゆる東北地方太平洋沖地震が起こり、須影地区の多くの住宅に被害が発生する。この地震により須影八幡宮の市指定文化財の壁面彫刻に被害が出る。同年12月14日、修復が完了する。	2011 東日本大震災
2011	平成23	10月 羽生市名の「屋敷裏遺跡」から、国内最古と思われる平安時代の金属口琴が出土した。 この遺跡は、利根川右岸堤防増強工事に伴う発掘事業である。	
2011	平成23	11月6日 郷土資料館主催「第7回ふるさと講座・須影地区北部の文化財を訪ねる」が開催され、図書館を集合解散場所として、須影地区北部地域（下羽生・加羽ヶ崎・秀安・須影）の歴史的資産を探訪する。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
2012	平成24	<p>3月 『羽生市地域福祉計画』が作成され、その中に記載されている須影地区の人口は以下のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 5,918人（世帯数 1,975世帯） ・1世帯当たり人口 3.0人（市 2.72人） ・年齢区分 0～14歳 14.3%（市 13.0%） 15～64歳 65.1%（市 65.1%） 65歳以上 20.6%（市 21.9%） 	
2012	平成24	3月 羽生市は、既公表の「洪水ハザードマップ」及び「地震ハザードマップ」を集大成した『羽生市防災ガイドブック』を作成し、市内全戸に配布した。	
2012	平成24	11月24日 須影地区地域史発掘事業の推進母体としての「羽生須影今むかし探究会」を設立する。	
2013	平成25	4月 羽生市は山梨県富士河口湖町と観光経済交流協定を締結した。	
2013	平成25	<p>5月31日 羽生市町内会連合会（町内会長11名）と羽生市連合区長会（地区区長会8、区長63名）が統合し、羽生市自治会連合会（地区自治会9、町内会長11名、区長63名）が設立された。</p> <p>これに伴い、昭和51年に設立された羽生市連合区長会は解散となった。</p>	
2013	平成25	<p>11月23日 羽生水郷公園で「ゆるキャラさみっとin羽生」が開催され、市のキャラクターである「ムジナもん」「いがまんちゃん」等とともに、羽生高校の「まがたまん」及び誠和福祉高校の「せいわなごみちゃん」も参加した。キャラクター集合数が世界記録となり、ギネスブックに登録された。</p>	 <p style="text-align: center;">ユルキャラサミット</p>
2014	平成26	12月 須影公民館耐震工事が完成した。	
2016	平成28	4月 東武鉄道伊勢崎線南羽生駅の上下線ホームにエレベーターが設置された。これに伴い、駅トイレも改修され、身障者トイレが設置された。	

西暦	元号	郷土の主な出来事	日本の出来事
2016	平成28	4月14日 熊本県を中心とした地域に震度7の地震が起こる。そして16日にはM7の本震を観測した。	2016 熊本大地震
2016	平成28	<p>5月 羽生市文化財保護審議会が開催され、その席上、小松神社に小松神社の三社殿（小松神社社殿・熊野神社社殿・白山神社社殿）の市文化財への指定書が渡された。</p> <p>【小松神社】</p> <p>小松神社は、羽生領72ヶ村の総鎮守で、第12代景行天皇の御代、日本武尊が東征の途、アラカ土手に陣営を敷いた折に小祠を建立したのが起源と言われている。12世紀の承安年間に、この地の領主となった小松内府平重盛が、社殿を修復するとともに、この社に熊野・白山権現を勧請したことから、熊野白山社となったとある。重盛の死後、その重臣の平筑後守貞能が、重盛の遺骨をかつて重盛が再興した熊野白山権現社の境内に葬り、その横に重盛の愛したイチヨウを植えるとともに小松寺を建立した。村人は、イチヨウの脇に祠を建て、その祠を小松明神と呼んだ。明治5年に神仏分離令により小松寺が廃された後は、小松寺の住職が小松三神社の宮司となり現在に至っている。須影地区の神社は小松神社の宮司が兼務している。また、須影・加羽ヶ崎・秀安の葬儀も小松神社の宮司のもと神葬祭で行われている。</p>	

2 須影地区各村江戸時代領主遷移表

1590	1614	1624	1632	1649	1652	1698	1705	1711	1721	1742	1785	1788	1790	1811	1867	1869	1871.7	1871.11		
天正18	慶長19	寛永1	寛永9	慶安2	承応1	元禄11	宝永2	正徳1	享保6年	寛保2年	天明5年	天明8年	寛政2年	文化8年	慶応3年	明治2年	明治4年	明治4年		
下羽生村	羽生藩 幕府領	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			岩槻藩			有馬(旗本)			下野足利藩			木村(旗本)			下野足利藩			下野足利藩		
			一柳(旗本)			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			新見(旗本)			新見(旗本)			新見(旗本)			新見(旗本)			新見(旗本)			新見(旗本)		
砂山村	羽生藩	幕府領	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
須影村	羽生藩	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			島山寺領			藤枝(旗本)			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			八幡社・白山社・東養寺領			藤枝(旗本)			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
秀安村	羽生藩	幕府領	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
加羽ヶ崎村	羽生藩	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			鷺宮社・長泉寺領			藤枝(旗本)			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
上・中・下 川崎村	羽生藩	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			宝光院領			藤枝(旗本)			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
上・中・下 川崎村	羽生藩	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			井上(旗本)→正徳3年(1713)下妻藩			井上(旗本)→正徳3年(1713)下妻藩			井上(旗本)→正徳3年(1713)下妻藩			井上(旗本)→正徳3年(1713)下妻藩			井上(旗本)→正徳3年(1713)下妻藩			井上(旗本)→正徳3年(1713)下妻藩		
上・中・下 川崎村	羽生藩	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			天神社・八幡社・浄林寺領			天神社・八幡社・浄林寺領			天神社・八幡社・浄林寺領			天神社・八幡社・浄林寺領			天神社・八幡社・浄林寺領			天神社・八幡社・浄林寺領		
上・中・下 川崎村	羽生藩	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			下妻藩			下妻藩			下妻藩			下妻藩			下妻藩			下妻藩		
上・中・下 川崎村	羽生藩	甲府領 (徳川忠長)	幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領			幕府領		
			下妻藩			下妻藩			下妻藩			下妻藩			下妻藩			下妻藩		

3 須影地区歴代区長一覧

(「須影地区歴代区長睦会名簿」より)

(敬称略)

(1) 須影

清水 幸一	昭和	20. 4. 1	～	昭和	21. 11. 30
間仲 三郎		21. 12. 1	～		22. 5. 14
小磯己弥吉		22. 5. 15	～		24. 3. 31
酒巻保太郎		24. 4. 1	～		28. 3. 31
小磯 幸蔵		28. 4. 1	～		30. 3. 31
柿沼 惣蔵		30. 4. 1	～		34. 3. 31
小磯喜伝治		34. 4. 1	～		34. 4. 21
鈴木吉太郎		35. 4. 22	～		36. 3. 31
高鳥 武雄		36. 4. 1	～		40. 3. 31
小磯 多吉		40. 4. 1	～		44. 3. 31
小磯 利政		44. 4. 1	～		46. 3. 31
阿部 朝治		46. 4. 1	～		48. 3. 31
山崎 次郎		48. 4. 1	～		54. 4. 30
大貫 進造		54. 5. 1	～		62. 4. 30
小林 啓二		62. 5. 1	～	平成	3. 4. 30
酒巻 和助	平成	3. 5. 1	～		5. 3. 31
(須影一区)					
高鳥一之介	平成	5. 4. 1	～	平成	9. 3. 31
柿沼 正二		9. 4. 1	～		13. 3. 31
小林 国二		13. 4. 1	～		17. 3. 31
高鳥 勇		17. 4. 1	～		21. 3. 31
栗原 昭一		21. 4. 1	～		25. 3. 31
小磯 域之		25. 4. 1	～		27. 3. 31
蛭間 春男		27. 4. 1	～		現在
(須影二区)					
酒巻 和助	平成	5. 4. 1	～	平成	7. 3. 31
清水 正一		7. 4. 1	～		11. 3. 31
小磯 文雄		11. 4. 1	～		13. 3. 31
高鳥 広一		13. 4. 1	～		14. 8. 5
斉藤 好一		14. 8. 6	～		19. 3. 31
和田 春雄		19. 4. 1	～		21. 3. 31
清水 一雄		21. 4. 1	～		23. 3. 31
川邊 隆美		23. 4. 1	～		27. 3. 31
清水 栄		27. 4. 1	～		現在

(2) 下川崎

廣瀬 栄	昭和	26. 4. 1	～	昭和	33. 3. 31
今成 清一		33. 4. 1	～		34. 3. 31
藤倉 清作		34. 4. 1	～		35. 3. 31
田中 徳一		35. 4. 1	～		36. 3. 31
藤倉 芳治		36. 4. 1	～		37. 3. 31
小室 一良		37. 4. 1	～		41. 3. 31
藤倉 正一		41. 4. 1	～		43. 3. 31
水野 清一		43. 4. 1	～		45. 3. 31

今成 敏男	4 5.	4.	1	～	4 7.	3.	3 1
川野 喜次	4 7.	4.	1	～	4 9.	3.	3 1
水野 竹治	4 9.	4.	1	～	5 1.	3.	3 1
藤倉 健一	5 1.	4.	1	～	5 3.	1 2.	3 1
小室 一良	5 4.	1.	1	～	5 5.	3.	3 1
小林 一男	5 5.	4.	1	～	5 7.	3.	3 1
藤倉 利秋	5 7.	4.	1	～	5 9.	3.	3 1
広瀬 俊一	5 9.	4.	1	～	6 1.	3.	3 1
小室 明	6 1.	4.	1	～	6 3.	3.	3 1
藤倉 金一郎	昭和 6 3.	4.	1	～	平成 2.	3.	3 1
今泉 幾次郎	平成 2.	4.	1	～	4.	3.	3 1
今成 秀	4.	4.	1	～	6.	3.	3 1
小室 博司	6.	4.	1	～	8.	3.	3 1
藤倉 勲一	8.	4.	1	～	1 0.	3.	3 1
白倉 重雄	1 0.	4.	1	～	1 2.	3.	3 1
広瀬 紀正	1 2.	4.	1	～	2 1.	3.	3 1
田中 敬二	2 1.	4.	1	～	2 3.	3.	3 1
水野 富雄	2 3.	4.	1	～	2 5.	3.	3 1
福島 照雄	2 5.	4.	1	～	2 7.	3.	3 1
藤倉 栄一	2 7.	4.	1	～	現在		

(3) 上川崎

木村 恒雄	昭和 3 9.	4.	1	～	昭和 4 1.	3.	3 1
白倉 松夫	4 1.	4.	1	～	4 3.	3.	3 1
近藤 竹之助	4 3.	4.	1	～	4 5.	3.	3 1
鈴木 幸三	4 5.	4.	1	～	4 7.	3.	3 1
牧田 壯平	4 7.	4.	1	～	5 0.	3.	3 1
石井 四郎	5 0.	4.	1	～	5 2.	3.	3 1
唐崎 倉吉	5 2.	4.	1	～			
武井 作一				～	5 4.	3.	3 1
石井 幸一	5 4.	4.	1	～	5 5.	3.	3 1
武井 一郎	5 5.	4.	1	～	5 7.	3.	3 1
木村 一雄	5 7.	4.	1	～	5 9.	3.	3 1
鈴木 正雄	5 9.	4.	1	～	6 1.	3.	3 1
坂本 要	6 1.	4.	1	～	6 3.	3.	3 1
武井 文夫	平成 6 3.	4.	1	～	平成 2.	3.	3 1
石井 宏	平成 2.	4.	1	～	5.	3.	3 1
中村 米二	5.	4.	1	～	7.	3.	3 1
石野 喜三	7.	4.	1	～	9.	3.	3 1
武井 英男	9.	4.	1	～	1 1.	3.	3 1
鈴木 康之	1 1.	4.	1	～	1 4.	3.	3 1
木村 博	1 4.	4.	1	～	1 6.	3.	3 1
唐崎 清	1 6.	4.	1	～	1 8.	3.	3 1
石井 忠弘	1 8.	4.	1	～	2 0.	3.	3 1
近藤 武	2 0.	4.	1	～	2 2.	3.	3 1
藤倉 豊治	2 2.	4.	1	～	2 4.	3.	3 1
石井 実	2 4.	4.	1	～	2 7.	3.	3 1
石井 忠弘	2 7.	4.	1	～	現在		

(4) 砂山

田沼 芳春	昭和	22.	4.	1	～	昭和	24.	3.	31
宮崎 恵一		24.	4.	1	～		26.	3.	31
田島 太郎		26.	4.	1	～		28.	3.	31
岡山 三郎		28.	4.	1	～		30.	3.	31
木村覺三郎		30.	4.	1	～		32.	3.	31
飯塚 鈞藏		32.	4.	1	～		34.	3.	31
持田 文吉		34.	4.	1	～		36.	3.	31
岡田 信雄		36.	4.	1	～		38.	3.	31
宮崎 恵一		38.	4.	1	～		40.	3.	31
長谷川福治		40.	4.	1	～		42.	3.	31
小林 浜次		42.	4.	1	～		44.	3.	31
中村 喜一		44.	4.	1	～		46.	3.	31
宮崎 茂		46.	4.	1	～		55.	3.	31
関口栄次郎		55.	4.	1	～		57.	3.	31
長谷川福治		57.	4.	1	～		59.	3.	31
奥野 実		59.	4.	1	～		61.	3.	31
田沼 栄一		61.	4.	1	～		63.	3.	31
飯塚 旭	昭和	63.	4.	1	～	平成	4.	3.	31
柴田 孝	平成	4.	4.	1	～		10.	3.	31
長谷部賢二		10.	4.	1	～		14.	3.	31
持田 文雄		14.	4.	1	～		18.	3.	31
岡田 和彦		18.	4.	1	～		21.	3.	31
中村 和人		21.	4.	1	～		24.	3.	31
大野 雅光		24.	4.	1	～		27.	3.	31
岡山 松蔵		27.	4.	1	～		現在		

(5) 加羽ヶ崎

竹村 作平	昭和	34.	4.	1	～	昭和	36.	3.	31
間中 好郎		36.	4.	1	～		40.	3.	31
斉藤 正之		40.	4.	1	～		42.	3.	31
諸井 平作		42.	4.	1	～		44.	3.	31
江原 福治		44.	4.	1	～		46.	3.	31
早川 覚		46.	4.	1	～		49.	3.	31
山岸 忠治		49.	4.	1	～		52.	3.	31
江原 喜雄		52.	4.	1	～		54.	3.	31
江原 喜正		54.	4.	1	～		56.	3.	31
金子 勝一		56.	4.	1	～		59.	3.	31
早川 一郎		59.	4.	1	～		61.	3.	31
荻野 政義		61.	4.	1	～		63.	3.	31
諸井 虎一		63.	4.	1	～	平成	3.	3.	31
諸井 末吉	平成	3.	4.	1	～		5.	3.	31
諸井 賢次		5.	4.	1	～		7.	3.	31
荻野 茂		7.	4.	1	～		9.	3.	31
諸井 茂		9.	4.	1	～		13.	3.	31
山岸 忠男		13.	4.	1	～		15.	3.	31
山岸 喜明		15.	4.	1	～		17.	3.	31
加藤 久八		17.	4.	1	～		19.	3.	31
竹村 耕一		19.	4.	1	～		21.	3.	31

斉藤 文雄	21. 4. 1	～	23. 3. 31
諸井 道雄	23. 4. 1	～	25. 3. 31
江原 憲次	25. 4. 1	～	27. 3. 31
荻野 廣雄	27. 4. 1	～	現在

(6) 秀安

島村 勇一	昭和 20. 4. 1	～	昭和 21. 3. 31
川野辺 寛	21. 4. 1	～	23. 3. 31
井野岡高市郎	23. 4. 1	～	25. 3. 31
野口 末吉	25. 4. 1	～	27. 3. 31
島村 林吉	27. 4. 1	～	29. 3. 31
吉岡 鶴	29. 4. 1	～	30. 3. 31
根岸 恵治	30. 4. 1	～	32. 3. 31
野口 和助	32. 4. 1	～	34. 3. 31
川野辺 釣	34. 4. 1	～	38. 3. 31
島村 弥一	38. 4. 1	～	40. 3. 31
吉岡辰次郎	40. 4. 1	～	42. 3. 31
小谷野賢吉	42. 4. 1	～	46. 3. 31
蛭間 操	46. 4. 1	～	50. 3. 31
岡戸 善吉	50. 4. 1	～	54. 3. 31
島村 治雄	54. 4. 1	～	56. 3. 31
川野辺高一	56. 4. 1	～	63. 3. 31
小谷野正次	63. 4. 1	～	平成 2. 3. 31
蛭間 政雄	平成 2. 4. 1	～	7. 3. 31
小山 光善	7. 4. 1	～	11. 3. 31
野口 清恵	11. 4. 1	～	13. 3. 31
根岸 浩祐	13. 4. 1	～	15. 3. 31
蛭間 武夫	15. 4. 1	～	17. 3. 31
島村 茂	平成 17. 4. 1	～	平成 19. 3. 31
吉岡 栄市	19. 4. 1	～	21. 3. 31
杉山久米治	21. 4. 1	～	23. 3. 31
問仁田 勝	23. 4. 1	～	25. 3. 31
島村 敏夫	25. 4. 1	～	27. 3. 31
川野辺武久	27. 4. 1	～	現在

(7) 下羽生

新井 太郎	昭和 36. 4. 1	～	昭和 40. 3. 31
中島菊次郎	40. 4. 1	～	41. 3. 31
中島 松寿	41. 4. 1	～	43. 3. 31
中島 稔	43. 4. 1	～	45. 3. 31
澤崎 熊蔵	45. 4. 1	～	47. 3. 31
田島 一郎	47. 4. 1	～	50. 3. 31
澤崎亀之助	50. 4. 1	～	52. 3. 31
小磯 正明	52. 4. 1	～	54. 3. 31
田中 光	54. 4. 1	～	56. 3. 31
関根 伊治	56. 4. 1	～	58. 3. 31
小磯 一重	58. 4. 1	～	62. 3. 31
小磯 武治	62. 4. 1	～	平成 2. 3. 31
今成 嘉助	平成 2. 4. 1	～	4. 3. 31

田中	洋佐	4.	4.	1	～	6.	3.	3 1
峰岸	政次	6.	4.	1	～	8.	3.	3 1
蓮見	藤一	8.	4.	1	～	10.	3.	3 1
小磯	仁平	10.	4.	1	～	12.	3.	3 1
中島	資二	12.	4.	1	～	15.	3.	4
水野	三郎	15.	3.	5	～	17.	3.	3 1
小磯	勝	17.	4.	1	～	19.	3.	3 1
中島	作次	19.	4.	1	～	21.	3.	3 1
澤崎	恒正	21.	4.	1	～	25.	3.	3 1
田中	守	25.	4.	1	～	27.	3.	3 1
松村	誠一	27.	4.	1	～	現在		

(8) 須影団地

千葉	清美	昭和	46.	10.	1	～	昭和	54.	3.	3 1
櫻井	忠温		54.	4.	1	～	平成	11.	3.	3 1
千葉	清美	平成	11.	4.	1	～		23.	3.	3 1
塚田	栄		23.	4.	1	～		現在		

4 須影公民館歴代館長一覧

(敬称略)

◎ 須影公民館館長

小磯賢之助	昭和	27.4.1	～	昭和	32.3.31
小山美晴		32.4.1	～		36.3.31
小磯幸蔵		36.4.1	～		56.4.30
関口啓助		56.5.1	～	平成	2.3.31
小室明	平成	2.4.1	～		10.3.31
柴田孝		10.4.1	～		18.3.31
諸井茂		18.4.1	～		20.3.31
小磯正		20.4.1	～		25.12.31
栗原昭一		26.1.1	～		28.3.31
江原博之		28.4.1	～		現在

5 須影中学校歴代校長一覧

(敬称略)

(1) 須影尋常高等小学校高等科・須影国民学校高等科（併設）（小学校校長）

細井栄蔵	大正	9.4.	～		11.10.	(兼務)
川辺助重郎		11.10.	～		13.3.	(兼務)
秋山多賀		13.3.	～		15.3.	(兼務)
蓮見喜緒		15.3.	～	昭和	4.10.	(兼務)
宮崎鼎	昭和	4.10.	～		11.3.	(兼務)
野中光吉		11.3.	～		16.3.	(兼務)
細村一男		16.3.	～		22.3.31	(兼務)

(2) 須影中学校

岡戸繁治	昭和	22.4.1	～	昭和	26.5.19
宮崎直三		26.6.22	～		29.3.31
大戸政治		29.4.1	～		36.3.31
須永俊光		36.4.1	～		41.3.31
高橋貞雄		41.4.1	～		45.3.31
折原浩一		45.4.1	～		50.3.31
川辺元一		50.4.1	～		55.3.31

※ 昭和55年3月31日 羽生市立南中学校に編成替えとなる。

6 須影小学校長歴代校長一覽

(敬称略)

(1) 砂山学校・日正学校・日盛学校・日盛尋常小学校・須影尋常小学校・ 須影尋常高等小学校・須影国民学校

後藤定一郎	明治	6. 3. 24	～	明治	19. 3.	砂山・日正学校
江原浅之丞		19. 3.	～		21. 3.	M19 日盛学校
長島 進		21. 3.	～		27. 3.	M25 日盛尋常小
出井茂三郎		27. 3.	～		28. 3.	
松原又八郎		28. 3.	～		30. 3.	
島田亀之丞		30. 3.	～		31. 3.	
塩坪辰五郎		31. 3.	～		32. 3.	
沢田 広雄		32. 3.	～		37. 3.	
新井 重作		37. 3.	～		39. 3.	
塩原 喜作		39. 3.	～		42. 3.	M42 須影尋常小
中居 米三		42. 4. 1	～	大正	7. 3.	
細井 栄蔵	大正	7. 3.	～		11. 10.	T9 尋常高等小
川辺助重郎		11. 10.	～		13. 3.	
秋山 多賀		13. 3.	～		15. 3.	
蓮見 喜緒		15. 3.	～	昭和	4. 10.	
宮崎 鼎	昭和	4. 10.	～		11. 3.	
野中 光吉		11. 3.	～		16. 3.	
細村 一男		16. 3.	～		22. 3. 31	S16 国民学校

(2) 須影小学校

柴崎 治郎	昭和	22. 4. 1	～	昭和	25. 3. 31	
吉岡登貴男		25. 3. 31	～		31. 3. 31	
新井 庫房		31. 4. 1	～		38. 3. 31	
田沼 正三		38. 4. 1	～		41. 3. 31	
赤坂 由三		41. 4. 1	～		45. 3. 31	
栗原 政一		45. 4. 1	～		50. 3. 31	
埜本 信雄		50. 4. 1	～		53. 3. 31	
越沼 敏雄		53. 4. 1	～		56. 3. 31	
江原 繁夫		56. 4. 1	～		58. 3. 31	
佐藤 登		58. 4. 1	～		63. 3. 31	
新井 吉男		63. 4. 1	～	平成	3. 3. 31	
森本 一成	平成	3. 4. 1	～		5. 3. 31	
小島 晴男		5. 4. 1	～		7. 3. 31	
柿沼 明子		7. 4. 1	～		8. 3. 31	
早川 信之		8. 4. 1	～		10. 3. 31	
金子 久雄		10. 4. 1	～		13. 3. 31	
飯塚 昇		13. 4. 1	～		15. 3. 31	
斉藤 忠		15. 4. 1	～		17. 3. 31	
今成 隆		17. 4. 1	～		21. 3. 31	
大竹久仁雄		21. 4. 1	～		24. 3. 31	
佐藤 敏之		24. 4. 1	～		28. 3. 31	
小峯由起子		28. 4. 1	～	現在		

7 須影地区及び関連指定文化財

(1) 岡田十松建立墓碑

- ・種別種類 羽生市指定記念物・史跡
- ・指定年月日 昭和31年9月27日
- ・員数 1基
- ・所有者 個人蔵
- ・所在地 羽生市砂山140番地 島山寺墓地
- ・概要 剣士岡田十松が父又十郎利達のために建立
正面に「岡岳院福翁義田岡田居士之墓」、
側面3面に岡田家の由緒が記されている
立原翠軒撰文揮毫
文化10年(1813)建立

(2) 須影八幡社彫刻

- ・種別種類 羽生市指定有形文化財・彫刻
- ・指定年月日 昭和44年3月20日
- ・員数 3面
- ・所有者 須影八幡宮
- ・所在地 羽生市須影1570番地
- ・概要 本殿の西側に「七福神」、北側に「神功皇后縁起」、東側に「おろち退治」「地形つき」
石原恒蔵主利・入江文治郎茂弘の作
安政5年(1858)制作

(3) 志多見の溜井跡と金兵衛堀

- ・種別種類 加須市指定記念物・史跡
- ・指定年月日 昭和30年11月27日
- ・所在地 羽生市上川崎・加須市志多見
- ・概要 灌漑利用のための溜井と灌漑用水路
元和7年(1621)に大河内金兵衛が造成

(4) 大河内金兵衛の位牌

- ・種別種類 加須市指定有形文化財・歴史資料
- ・指定年月日 昭和31年4月16日
- ・員数 1基
- ・所在地 加須市志多見519番地 長昌院
- ・概要 羽生領代官大河内金兵衛久綱の位牌
「木光院殿法林崇無居士覚靈」とある
須影村蓮華寺にあったが、廃寺により移設

(5) 志多見砂丘

- ・種別種類 加須市指定記念物・名勝
- ・指定年月日 昭和31年9月24日
- ・所在地 加須市志多見1700番地外
- ・概要 会の川の右岸に発達した河畔砂丘

8 須影地区思い出の歌

(1) 須影小唄

- 1 春の野山は 若葉がかほる
娘桑摘み 蚕のさかり
ソレソレ つめつめ サッサノサ
- 2 田には見事に すげ笠並ぶ
手並みそろえて 田植えの小唄
ソレソレ 忙しい サッサノサ
- 3 田浦見渡しや 穂に穂がなびく
汗のしづくが 黄金の波よ
ソレソレ 鎌とげ サッサノサ
- 4 冬の夜寒に 灯りがもれる
それは娘の はた織る灯り
ソレソレ 精出せ サッサノサ
- 5 私しや須影の 松原育ち
村じゃ評判 働き者よ
ソレソレ 愛せよ サッサノサ

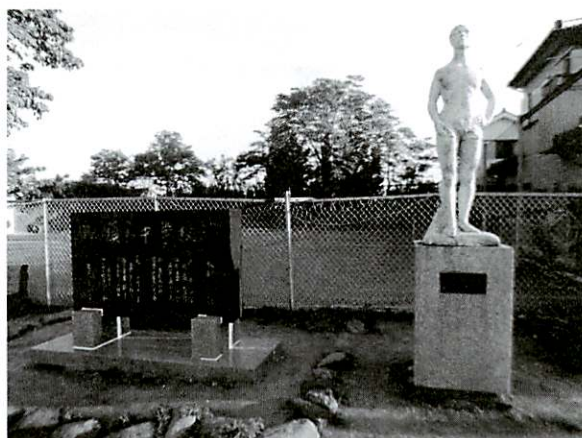
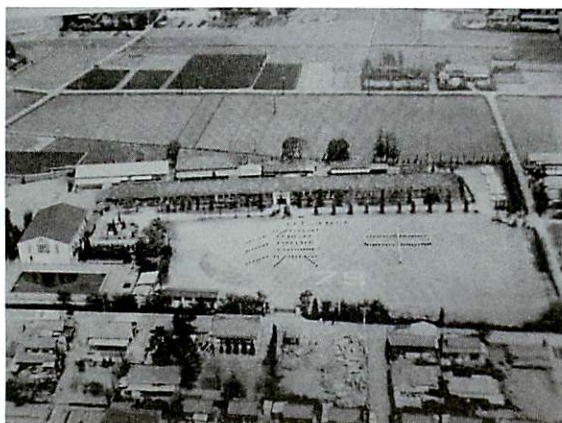


(2) 羽生市立須影中学校校歌

宮沢 章二 作詞

下総 皖一 作曲

- 1 春めぐり来れば百千鳥(ももちどり) 競いて歌う武蔵野の
平和なる里にわきいづる 希望の泉 若き夢
ああ須影中学校 花咲く我等の学び舎
- 2 秋めぐり来れば土の幸 豊かに実る輝きの
静かなる里に新しき 光を添えん もろともに
ああ須影中学校 伸びゆく我等の学び舎



(3) 羽生市立須影小学校校歌

宮沢 章二 作詞

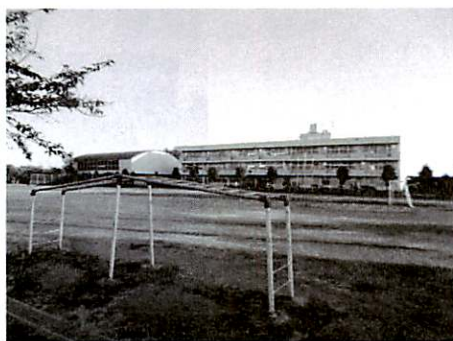
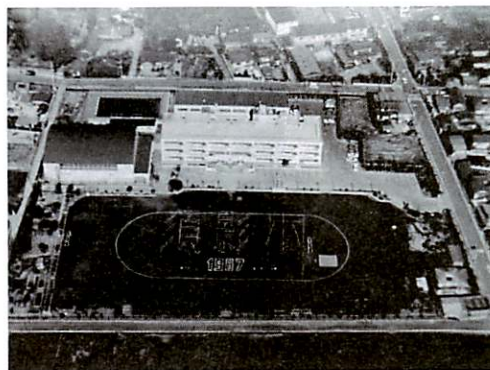
下総 皖一 作曲

1 いつも明るく いつも仲よく
われらはまなぶ われらははげむ
ますみの空よ みどりの須影
朝日にかがやく まなびやよ

2 みんな元気に みんなすなおに
手に手を取ろう ゆくてを見よう
はるかに富士が けだかくそびえ
われらをはぐくむ まなびやよ

3 花はやさしく 鳥はたのしく
われらを招く われらをいだく
みのりの風が ほほえむ須影
ゆめにもわすれぬ まなびやよ

(昭和24年3月制作)

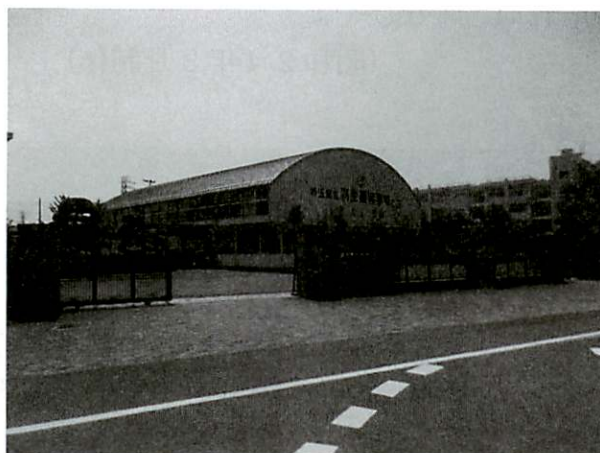


(4) 県立羽生高等学校校歌

宮沢 章二 作詞

土井 泰 作曲

- 1 胸をいろどる勾玉の 思いやさしくまた強く
羽生高校 この高楼は 薫る理想の湧くところ
見よ 青春の羽ばたきを
- 2 励み励まし大利根の 水に告げ合う夢若く
花のいのちよ 光に実れ 辛苦自立の学園に
いま 黎明の風のこえ
- 3 望み燃えつつ明日の世へ 巣立つ力を生む日夜
羽生高校 この愛の灯に 道は明るくなつかしく
春 清新のうたを呼ぶ

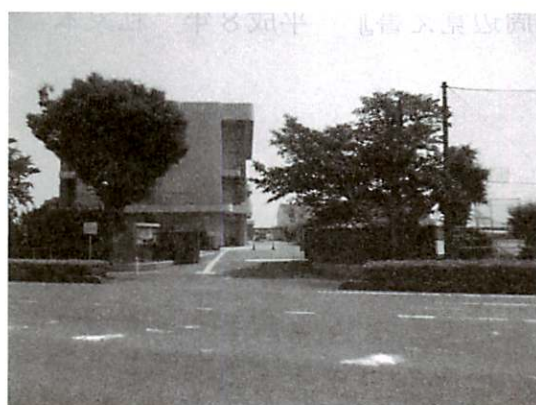


(5) 県立羽生ふじ高等学園校歌

梶田 巧 作詞

松澤 ゆかり 作曲

- 1 羽生ふじ 羽生ふじ 高等学園
紫の藤 風薫り 喜びの声 こだまする
あつき心で 友と語り 未来を信じ歩み行こう
羽生ふじ 羽生ふじ われらの 学び舎
- 2 緑の大利根 風渡り はるかかなたに 流れ行く
ふくつの心で 友ときたえ 夢を大きく叶えよう
羽生ふじ 羽生ふじ われらの 誇り
- 3 黄金の稲穂 風にゆれ めぐみは豊か 今実る
自立の心で 友とちかい 希望を胸に飛び立とう
羽生ふじ 羽生ふじ われらの 母校



【参考文献】

この小草紙を作成するに当たりお世話になった文献

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ・市史編集委員会『羽生市史』 | 羽生市 |
| ・平井辰雄『近世羽生郷土史』 | 羽生市古文書に親しむ会 |
| ・『新編埼玉県史』 | 埼玉県 |
| ・『埼玉県行政史』 | 埼玉県 |
| ・県教育委員会『埼玉県史料叢書』 | 埼玉県 |
| ・『日本全史』 | 平成5年 講談社 |
| ・『新編武蔵風土記稿』 | 雄山閣 |
| ・『角川日本地名大辞典11』 | 昭和55年 角川書店 |
| ・『日本歴史地名大系11』 | 1993年 平凡社 |
| ・北埼玉郡役所『埼玉縣北埼玉郡史』 | 大正12年 千秋社 |
| ・大戸政治『須影地区郷土史年表』 | 昭和35年 |
| ・問仁田勝『羽生市年表』 | 平成26年 私家本 |
| ・問仁田勝『須影地区のあゆみ』 | 平成26年 私家本 |
| ・『須影中学校記念誌』 | 昭和55年 須影中学校記念事業委員会 |
| ・関口啓助『砂山・その周辺覚え書』 | 平成8年 私家本 |

■ 年表主要項目索引

● あ行

会の川改修工事完了	42
青縞製産盛んになる	21
浅間山大噴火	18
愛宕神社(砂山)創建	9
愛宕神社(須影)建立	17
荒砂長太郎	24
イオンモール開店	49
巖島神社再建	41
板碑(青石塔婆)	5
出井熊吉最上農家となる	34
出井熊吉	38
出井兵吉	45
一等水準点設置	46
田舎教師文学碑建立	49
伊奈利神社(砂山)再建	14
今成新左衛門殉職	27
今成利陀	11
慰霊塔建立	43
午の堀開削	10
会下山に浄慶寺	9
円福寺創建	6
大河内金兵衛没	12
岡田十松吉利生まれる	18
岡田十松建立墓碑文化財指定	44
奥東京湾	2
小埼沼	1

● か行

葛西用水路完成	14
葛西用水遊歩道完成	47
瘡守稲荷(秀安)建立	17
和宮助郷	23
加須低地	2
「蒲ヶ崎」とある	12
加羽ヶ崎秀安土地改良事業完成	46
草原郷	3
草原忠家	3
川崎村の経緯	12
関東造盆地運動	2
関東大洪水	19
「関東大震災の思い出文集」発行	47
鬼仏(田沼治兵衛)没	23
郷土資料館・図書館開館	48
金兵衛堀開削	10
葛瀬氏館跡	3
葛濱四郎行平	3
慶安の御触書	13
検地(砂山・下羽生・秀安・上下川崎)	14
小磯旭岳没	34

小磯米山没	37
神戸橋建設	20
国道122号に昇格	45
国道122号羽生バイパス全面開通	46
国道125号加須羽生バイパス開通	49
御朱印交付	13
戸長役場設置	30
小松神社	52
小松埋没古墳	2
壘田永年私財法施行	3

● さ行

災害時避難場所	50
埼玉新聞の経緯	42
産文ホール開館	47
志多見溜井完成	10
下羽生耕地整理完了	39
下羽生分教場設置	32
種痘実施	26
正名学校設置	28
縄文海進	1
宗門改め	11
浄林寺創建	11
昭和橋遍歴	41
眞光寺開山没	14
神社の合祀	38
上地令	26
水準点設置	46
須影駅開駅・閉駅	38
須影駅再開業	41
須影簡易水道完成	44
須影競馬場廃止	43
須影公民館完成	47
須影公民館耐震工事完成	51
須影小学校の経緯	29
須影小学校改築・校庭整備	47, 48
須影信用販売購買利用組合創立	39
「須影地区の文化財巡り」開催	50
須影地区歴代区長睦会設立	48
須影中学校の経緯	40
須影駐在所設置	36
須影農協解散	46
須影埋没古墳(推測)	2
須影村(新)発足	35
須影村連合戸長役場発足	30
須影村役場新築移転	41
砂山学校設置	29
砂山簡易水道完成	44
砂山集会所完成	46
誠和福祉高校経緯	46

セスナ機墜落	47	羽生高校の経緯	43
戦闘機墜落	42	羽生高等小学校開校	35
		羽生小松台工業団地造成事業完了	48
		羽生市誕生・歴代羽生市長	43, 44
● た 行		羽生市自治会連合会設立	51
太陽暦の施行	28	羽生市農協設立	46
田中神社建立	6	羽生市名誉市民	44
地域活動センター設置	49	羽生市連合区長会設立	47
長泉寺開山没	14	羽生須影今むかし探求会設立	51
長泉寺不動尊安置	16	羽生実業高校の経緯	39
潮元没	26	羽生周辺打ち壊し一揆	25
潮元師碑建立	34	羽生陣屋経緯	25
手子堀開削	10	羽生第一高校開校	47
手子堀用水路筋(古利根川)	1, 2	羽生中学校開校	33
天神社(上川崎)創立	11	羽生藩成立・城取壊し	7, 10
天神社(上川崎)御朱印	13	羽生ふじ高等学園開校	49
島山寺開基没	8	秀泰郷の記録	6
島山寺「不許葷酒入門内」碑建立	17	日向堀開削	11
陶質素焼骨壺発掘	4	富士塚築造	23
道標設置	21	不動岡高校の経緯	32
東曜寺建立	13	法眼雪兆	24
東曜寺観音堂建立	14	宝光院阿弥陀仏安置	7
図書館開館	48	ほくさい農協設立	49
戸田宮設置	19	本多忠伸に慰労金	30
利根川決壊	8		
利根川本川俣村で決壊	10, 19, 22	● ま 行	
利根川中条で決壊	39	松平家忠・会の川を通り転封	8
利根川引堤	44	丸加講設立	22
		南中学校開校	47
● な 行		南羽生駅に改名	45
長島仁左衛門「算額」奉納	24	南羽生駅に身障者トイレ設置	51
南部幹線完成	48	南羽生駅にエレベーター設置	51
南方用水完成	15	南羽生土地区画整理着手	48
日盛学校放火	34	宮崎山	6
根岸簡恵	37	武蔵川大治郎	19
		武蔵川大治郎(8代目)勸進相撲	24
● は 行		諸井勇行要人没	35
廃仏毀釈	27		
廃藩置県	26	● や 行	
八幡宮(須影)御御籤	24	屋代義雄没	36
八幡宮(須影)黒松伝説	4	ユルキャラサミット	51
八幡宮(須影)御朱印	13		
八幡宮(須影)再建	23	● ら 行	
八幡宮(須影)彫刻文化財指定	45	蓮華寺建立	10
八幡宮(須影)黒松伐採	48		
八幡宮(須影)彫刻被害修復	50	● わ 行	
八幡宮(加羽ヶ崎)創建	6	ワークヒルズ羽生開館	48
花見橋再建	22	鷲宮神社(秀安)創建・再建	16, 18
羽生駅開駅	37	渡り川	2
羽生学校開校	28		
羽生警察署経緯	36		

須影地区地域史発掘実行委員会
 須影今むかし探究会会員名簿

(敬称略)

役職名	会員名	住 所	所 属
顧 問	小磯 正	須影	須影寿会連合会会長
顧 問	栗原 昭一	須影	
代 表	江原 博之	加羽ヶ崎	須影公民館長
代表代行	間仁田 勝	秀安	文化財保護審議委員
監 事	岡山 松蔵	砂山	砂山区長
監 事	福島 照雄	下川崎	
	藤倉 栄一	下川崎	下川崎区長
	石井 忠弘	上川崎	上川崎区長
	蛭間 春男	須影	須影一区区長
	清水 栄	須影	須影二区区長
	荻野 広男	加羽ヶ崎	加羽ヶ崎区長
	川野辺武久	秀安	秀安区長
	松村 誠一	下羽生	下羽生区長
	塚田 栄	須影	須影団地区長
	柿沼 正二	須影	
	清水 勝也	須影	
	高橋 武雄	砂山	
	多田 義美	須影	
	千葉 清美	須影	
	諸井 道雄	加羽ヶ崎	

事務局
 須影公民館

編集後記

歴史叙述の編纂方法には、各種の事実をそのまま年代を追って記していく編年体による手法と、一つの事実について、その事実の流れを年代にそって追って記していく紀伝体による方法、そして、その折衷形である紀事本末体による方法があります。

この『羽生須影地区歴史年表』も、年表という性格上、総体的には須影地区の事実を太古から現代までを年月を追って記す編年体で構成しております。

しかし、この編年体のみでは、須影地区の記録書としては、それなりに価値はありますものの、単なる事実を追うだけで、読んで見て楽しいものではありません。

記憶に残る年表、知識として残る年表、そして読める年表とするために、主要な項目の記述において、その事実の流れがわかる紀伝体を取り入れ、読んで楽しい年表にすることとしました。

いわゆる本書の編集には、両者の折衷体とは異なる、編年体に紀伝体を取り入れた併用体として編纂してあります。

この書を手にした須影地区の皆様が、わがふるさと須影は、素晴らしいところであることを感じていただき、なお一層、ふるさと須影に愛着を持っていたければ幸いです。

この書を作成するに当たり、須影地区出身で在住の市教育長であります秋本文子先生に花を添えていただいたことに深く御礼申し上げますとともに、ご意見、ご提供等、ご協力いただいた諸先生及び地域の皆様に感謝し、編集後記と致します。

平成28年7月

羽生市文化財保護審議委員
問仁田 勝

書名 読める年表 羽生須影地区歴史年表
発行日 平成28年7月
編集・文章責任者 間仁田 勝
発行 須影地区地域史発掘実行委員会
羽生須影今むかし探求会
